第３章 総括

３－１　幼児教育分野の問題点と改善案

３－１－１　中国における幼児教育の実情と問題点

中国における幼児教育の現状には、派遣要請である日本の幼児教育の理念や、保育の内容・方法を導入するという観点からみると、問題点や課題が多々ある。派遣中の隊員や今後派遣される隊員が、中国の教育事情を理解し、うまく対処して協力成果が得られるようになっていくために、現状と問題点をいくつか列挙してみる。なお、この問題点は、望ましい日本の幼児教育を、果敢に実践しようと努力している隊員の保育を間近に観察したことと、「幼稚園教諭の分科会」で共に研修したことから、浮き彫りにされたものである。

（１）「発達」を無視した結果主義の保育

幼児の心身に対する「発達観」や「表現観」に欠けており、中国人教師は、子どもの発達に即した保育の展開よりも、できばえや、かたちや結果を出すことに性急な保育をしているように見える。

そのために三歳児らしさである混沌さも感じられないし、四歳児・五歳児とも、きちんとまとまりすぎていて、その年齢らしさが感じられない。例えば、五歳児の絵画表現は、「手本」に忠実に描いた絵とも思わせられるようなものであり、緻密なデッサンやタッチによるものであって、これが五歳児の作品かと目を疑うような日本の小学校・高学年のような作品ばかりである。しかも、それがコンクール入選・特選の作品として、壁面に展示されている。三歳児の保育室に展示されている空き箱での製作にしても、きちんと形良く出来上がったものであり、大人が手をかけすぎた大人のイメージ丸出しの完成品である。三歳児らしさも、子どもの息づかいさえも感じられない。いずれも個性の見られない画一的な作品ばかりであり、「発達」を無視した作品主義や結果第一主義の保育である印象を受けた。

（２）個よりも集団を重視する保育

社会主義という生活の基盤もあるが、一斉活動・全体活動が多い。さらに画一的・一律的であって、中国教師は与えすぎ、押しつけ的な保育が多く、子どもにとっては受け身的になり、子どもの主体性や創造性を発揮させる余地がない。教師主導型の知識注入型の保育である。

画一的で自由な取り組みの許容度が少ないため、多様な表現がみられず、個性的表現に乏しい。人間形成の基礎を築く幼児期には、生活や遊びを通して、自らの生き方を体験させ、遊び、学習させることが大切であり、一人一人に多面的な育ちが得られるような活動を保障してやらなければならない。

各園とも、随所で随時に行われている「集団体操」は、昔ながらの一糸乱れぬ中国の体操風景である。一見、集団の美としての様相を呈してはいるが、幼児であるがゆえに、不自然なほどの隊形や姿ともみえる。三歳児の子どもたちも、四歳児・五歳児にも劣らず整っているのが不思議である。たくさんの数の教師が、子どもの前に立ち、横一列になって手足を伸ばし、きれいに美しく体操しているのも印象的である。

（3）中国の等級制

園長は共産党員であるが、中国の幼稚園教師には、特級教師、一等級教師と等級がついている。それ以外の教師は、一等級になるように精進している。もちろん賃金は違うようである。いわゆる階級制である。

どんな規準で、どんな教師がランクの高い教師になるのか、今回の調査では把握できなかったが、それがわかれば、中国の考えている幼児教育の在り方や、「望ましき教師像」が明らかになるような気がする。残念ながら、数日間数時間の視察や中国人教師との接触では、コメントは憚られるし、誤解を招く危険性があるので、多くは語れないが、本件を追求してみる意義はあろう。

日本にも「勤務評定」が確かにある。しかし開示されない限り、自分にも他人にもわからないのである。ところが中国では、各園の玄関先に等級ごとの顔写真が、大きく堂々と並べられている。訪問者や子どもを送迎する保護者が、毎日目にする事ができるのである。保護者相互間の問題として良き教育効果があるとも思えず、親の不公平感や信頼感に影響はないものか疑問を感じた。

今回、接触した園長はすべて女性であり、そのうちの一人は、３０歳の特級園長であった。もう少し日数をかけ、幼稚園の同じ屋根の下で、子どもにかかわる中国教師と共に生活してみれば、特級、一等級の教師の位置付けや、中国の教育観（保育観）がきっと解明できるし、この方策の意味もわかるかもしれない。

（4）生活感の乏しい保育観

中国では、一学級に教師と保育員とが複数名いて、子どもにかかわっている。その大人は、教育と養護とに分離した役割分担で、保育に当たっている。子どもは、朝食・昼食・夕食の三食を幼稚園でとり、保育室に隣接しているベッドルームで昼寝や宿泊をする、という生活をしている。しかし、二人の大人が、同じ時間帯で子ども達に共にかかわっていながらも、二人の仕事内容が違うのである。すなわち、教育の面は教師が行い、養護の面は、保育員が担当しているという具合である。

賃金格差の大きい教師と保育員であるが、保育員は教育面の補助をすることがあっても、教師は、トイレ指導や片づけなどの生活指導、保育の清掃・整備などの雑務的仕事を保育員に任せきりでやろうとしない。もちろん教師は、教材研究をし指導案を書いて、保育するのが主たる活動であり、保育員はこの点の仕事には関与していない。これらは、調査団が三歳児の保育の実際を観察しながら捉えたことがらである。

子どもは、２４時間生活しており、幼稚園でも生活している。排泄、洗面、手洗い、歯みがき、かたづけ整頓、洋服の着脱、食事等は、日常活動であり、すべて大切な保育内容である。幼児の生活は年齢が低ければ低いほど、家庭にいる時間よりも幼稚園にいる時間が長ければ長いほど、教育と養護とを一体化したものとして強く考える生活観や保育観がないと、子どもたちは、子どもらしい生活が出来ない。そして、健やかな成長発達を遂げていくことができない。

平成元年と平成１０年とに改訂された日本の「幼稚園教育要領」は、有名な保育学者であり実践者でもある倉橋惣三の「生活を　生活で　生活に」のスローガンどおり、幼児の生活を、幼児の生活を通して、よりよい生活にしていくという考えに立脚している。幼児の主体性を尊重し、「幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする」ということを教育理念とし、生活観を教育要領のベースのひとつとしている。この点、中国の幼児教育では、生活（遊び）における心情、意欲、態度の育成よりも、生活と遊離した知識や技能を重視した保育を考えていることで、日本の保育の考え方や在り方と趣を異にしている、という感が強い。

今回の調査において各園共通して気付いた点は、保育中の教師や保育員が高いかかとのシューズやパンプスを履き、きれいな色のスーツ姿や長いコート姿で、ボール遊びや鬼ごっこなどをして遊んでいる子どもたちにかかわっている風景である。このような保育態度や保育姿勢は、子どもと共に生活するという生活発想や生活感が中国の幼児教育に希薄であることの証左であるとも感じられた。

（5）大きな園舎で、ベッドルームのある幼稚園

世界の多くの国と同様に、中国も貧富の差が激しい。就園率は不明であるが、幼稚園に来る幼児は、裕福な家庭の子どもであるという。一人っ子政策が示すように、園児数は非常に多い。したがって、学級数も多くなり、幼稚園全体の規模も大きいのである。外観は一見日本の小学校や中学校のようなたたずまいである。建物は、３階～４階のコンクリートづくりであり、少し冷たい感じもする。

保育室は、日本のそれと同程度の大きさであるが、違うのは、保育室に隣接されている保育室よりも広いベットルームがあるということである。三歳児・四歳児・五歳児のどの学級とも、保育室とベッドルームの二室が、セットで設置されている。ベッドルームには、同じ柄の布団が置かれている。一人ずつ寝るベッドだが、全員の数ほど整然と並べられている。このことが、おおきな構えになっている所以である。ベッドルームの存在に目を見張ったが、中国の幼稚園生活は、夕食を食べて６時に降園するという長時間保育であることから、一日の生活時程の中に、日本の保育園と同じく、「昼寝」が位置づけられている。そのためのベッドルームなのであった。

（6）「全託制」の寄宿生活

中国の特徴的な保育方法として、「全託制」の寄宿生活がある。その日だけ幼稚園で宿泊するという「日託制」もあるが、全託の子ども達は、かなりたくさんいる。全託児は、前記の（5）で記したベッドルームの自分のベッドで、夜の８時から朝の７時まで睡眠をとる。そして、土曜日と日曜日のみ自宅で生活をする。

早生まれの三歳児の子どもであっても、月齢差への配慮をしないで、全託で寄宿させられている幼児もいる。全員での「夕食」が終わると、日託幼児の６時の「お迎え」（多くは祖父母の迎え）が始まる。全託の子どもは、保育室での迎えの風景や雰囲気にふれながら、テレビを見せられているが、「自分はいつ帰れるのか」と教師に問い続け泣いている。この現象を見るにつけ、２４時間、しかも毎日の幼稚園での寄宿生活は、幼児の心理的、精神的な面や発達の面から考えてみても、はたして幼児期にふさわしい生活なのかと感じた。

さらに、全託の子どもの養護面について聴取すると、夜の寄宿生活を担当するのは、昼の生活担当の教師でも保育員でもなく、別組織の寄宿担当の人であるとのことである。保育中一人の女児の洋服の汚れが気になり、食べものの汚れか、遊び込んでの汚れかと団長より協力隊員に問うてみると、その女児は三歳児であり、ほとんど一週間、毎日のように同じ洋服を着ていて、他の幼児も着替えはないとのことである。

子どもは２４時間生きているのである。全託児にかかわっている大人は、分担の仕事をしているに過ぎないかもしれない。しかし、全託の子どもは、継続して２４時間生活し続けている。３－１－１（４）で前述したが、昼の生活、夜間の生活、朝の生活における子どもの生活の理解に伴った連携プレーもせず、全く大人のご都合主義で、こまぎれのかかわりをしてしまっているのではなかろうか。一人一人の子どもにとって、衣、食、住、精神生活等の面から一考すべきであると感じた。

（7）「自由な遊び」の軽視

ある幼稚園を訪問した際、園長が「今は園庭で遊んでいて、授業はしていませんから」と語りかけてくれた。この言葉が示すように、中国の現在の保育現場では、教師が一斉保育をするときが教育である、という保育観があり、自由な遊びの時間は保育ではなく、教師の息抜きの休憩時間にしているきらいがある。

中国の親のニーズは知育志向であり、「生活（遊び）よりも勉強」という考えを持っているようである。教師自身も同じ志向であり、子ども自身が自由に自分で見つけた遊び、すなわち自由な好きな遊びを重視せず、保育室に子どもを集め、一斉に知識を注入したり技術を習得させようとする知識や技術偏重の教育をしたがるのである。

１９９９年の８月に団長が視察した開発途上国のドミニカ共和国やボリヴィアでもそうであったように、中国の保育室でもいすや机（テーブル）が常時並べられている状況で、子どもたちが、いすに座っている状態の時間が長い。これは、一斉保育を重視した保育形態で行うことが多いことを物語っている。

（8）協力隊員とCPとの関係性

日本での研修を終えて帰国した CP と同一学級で保育し、要請内容である日本の幼児教育の導入、日本の幼児教育の創造と実現に対する協力成果を上げたいというのが、隊員の願いである。しかし、園長の経営方針があって、隊員の願いがなかなか受け入れられないという実情がある。

３－１－２　実情や問題点に対する改善案

（1）「全託制」の寄宿生活に対する課題

中国の保育現場を視察して最も気になったのが、「全託制」の保育である。中国人は、国のために働くという信念と誇りとをもっている勤労意欲旺盛な国民である。働く親の生活が保障されているということもあって、経済成長率も高まっている。その反面、「寄宿生活」という名目で、子どもを幼稚園に託しきりにしているきらいがある。

かけがえのない一人っ子に、寄宿生活をさせることによって自立心を培いたい、という親の願いがあるかもしれない。しかし、親から離れて生活していれば自立心が養われるというものではない。子どもは幼ければ幼いほど、親や家庭の愛情を求める。そして、その愛情に包まれていることで、大人に対して信頼感を持ち、情緒が安定していき、自立へ向かおうとする。すなわち幼児期の発達の特徴である「依存しながら自立へ向かう」という発達の道筋の原理があることを、大切にしなければならない。親が自立心を願うばかりに、全託の寄宿生活を強いていくと、子どもの心の負担となり、心身ともに健やかな成長発達を遂げることができなくなるのでははかろうか。

中国では、「遊び（生活）より勉強という強いニーズがある。それに応えてくれる知識注入や技能習得を第一目標に掲げている幼稚園を求めて、遠隔地から来る幼児は、寄宿生活を余儀なくされている。３－１－１（４）にも記述したとおり、保育理念の面から一考すべきことがらである。

子どもたちは、２４時間幼稚園で生活をしている。夕食後の６時から就寝の８時までの２時間を、どこで、どのように暮らすのかが案じられる。一人一人の子どもに、家庭的雰囲気のある生活空間の保障をする必要がある。これと同様に人的環境である夜の生活の養護に当たる大人の責任問題を重視したい。寄宿生活の夜の担当者は、衣、

食、住、衛生面などの介助や援助の任務に専念し、家庭的雰囲気に満たされた寄宿生活で、幼児の心身の発達を助長しなければならないのである。これらの課題をふまえ、全託の子どもたちの人権を尊重し、子どもの幸福をめざした保育や生活を構築しなければならない。

（2）「自由な遊び」のすすめ

子どもに「選択の自由」を保障してやると、子どもは主体性を十分に発揮し、子ども自らの欲求や意図によって、自分のしたい遊びを見つける（選択する）。これが「自由な遊び」である。自由な遊びでは、子どもが対象となるもの（環境）に主体的に働きかけ、場所（空間）や、時間、道具、材料、友達（仲間）、遊び方（方法、順序）等を自由に選択し、自分のイメージどおりの遊びになるまで、失敗や挫折をしてもあくことなく、試行錯誤を重ねながら創意工夫し、全我を投入して取り組んでいき、「自分の見つけた遊び」を自己実現していくのである。自分の選んだ好きな遊びであるがゆえに、子どもたちは遊びを主体的に展開して、心ゆくまで遊び切ることができる。その時の活動している状態は、生き生きとした姿そのものであり、自己充実感にあふれ切っている。

遊びによって獲得したこのエネルギーは、次なる活動の原動力となり、次なる成長発達の貴重な糧や経験となっていくのである。そして、豊かな心や多種多様な生きる力を身につけていくことができるのである。

このような「自由な遊び」の意義があるにもかかわらず、中国の幼稚園教育の現状では、教師主導型の一斉保育こそ教育である、という概念があり、「自由な遊び」を軽視する傾向がある。また、「自由な遊び」を大切にすることで、保育が変わってくる。すなわち、子どもの主体性が育って生き生きとしてくる、保育理論が浸透していないように思える。

「自由な遊び」は、子ども自らが選択した遊びであるがゆえに、自分の意のままに夢中になって、遊び込むことができる。この原理を応用すると、一斉活動の場での課題活動であっても、「自由な取り組み」を許容した自由感にあふれた保育をしていくならば、子どもは、一人一人の感性や意図にそって主体的な活動を展開し、画一的・一律的でない多様な表現や、その子らしい個性的な表現を産み創り出していく、ということも提言したい。

「自由な遊び」を軽視する保育観や現象は、日本の保育現場でも昭和５０年代まで存在していた。中国の幼児教育でも、さらなる保育の改革をめざして、新しい保育の歴史を創造したいものである。

（3）CP と協力隊員との関係性

両者の関係については、どの派遣国でも、どの幼稚園でも存在する問題である。良好でない人間関係など機微なるものもあるが、コミュニケーション能力の向上に関する学習を、全員の隊員が出発前にする場があると良いと思う。

隊員は、協力効果を上げるために、本邦研修に派遣されて帰国した CP とタイアップして活動をすることを希望している。JICA 中国事務所の働きかけが既になされてはいたが、今回の訪問で重ねて隊員の希望を叶えていただくように要望した。各園長の思惑や経営上のビジョンもあり、すんなりとは解決できない幼稚園もあった（山西省康楽幼稚園）。申し入れを受け入れてもらえた幼稚園もあった（重慶市渝北幼稚園）。隊員と CP との関係性がスムーズにいくように、着任前に確認しておくとよいと思う。

なお、この項に関しては、２－１－１及び２－１－３に詳述されているので参照さ

れたい。

（4）派遣要請理由と実際活動のズレ

筆者が視察した実感として、中国人教師はプライドが高く、幼稚園教育に対して自信を持っているということを感じた。

隊員の「ズレ」の感覚は、日本の幼児教育の理念と日本式の保育を受容する姿勢があまりない、ということに対する隊員のジレンマに起因するものと考える。これは要請と違うことである。

重慶市の五園を視察した際に、園長に要請意図を質問してわかったことがある。日本の幼稚園教育の方法や内容を導入することを第一の目的とするよりも、両国の幼稚園教育の交流をはかるという願いを持っているということである。要請内容が変化していると感じた。交流の内容は、CP や園長などその他の中国人教師が、日本の幼稚園現場へ赴き、保育の実際活動としての研修ができやすいようにするための一手段として、青年海外協力隊員を招聘し、日本へ行く機会を作ろうとしている点もあるかに思えた。

そうなれば相方の活動を活性化するためにも、既述の通り、研修を終えて帰国した CP とタイアップして、日本の幼稚園教育を普及啓蒙させる機能を保障してほしいものと考える。

（5）重慶市５園の要請背景調査と今後への期待

５園すべての要請を受け入れるという結論に達した。それは、隊員のグループ活動を通して、重慶市全地域の幼稚園へ日本の幼稚園教育を普及させるなど、さらなる協力効果が期待できると判断したからである。あわせて、「日本と派遣国との保育交流活動の在り方」を、世界各国の派遣国の幼稚園教諭の協力隊員に発信することができるというネットワーク機能での効果を期待したからである。

なお、同一市内に多数の隊員が集まって協力活動をするという意図を実現するために、任期を満了した中国幼稚園教諭隊員に、再度赴任していただき、この活動に参加してもらうという選択肢もあるのではないかと、派遣実現を期待している。

３－２　巡回指導から得たこと

３－２－１　協力成果を上げている隊員たち

（1）高く評価されている保育姿勢

山西省康楽幼稚園の第二代目の要請をした理由は、一代目の隊員の活動ぶりから、「日本の保育者の誠実さを見習いたい（モデルにしたい）」ためということだった。子どもへのかかわり方、保育中の服装、教材研究、教材づくりなど、保育者の保育態度や保育姿勢を中国教師に学ばせたいという思いだったことを、話し合い中に副園長から聞いた。隊員の姿そのものをまるごと高く評価してもらっていると、うれしく思った。

隊員たちは、要請と実際とがズレていると受けとっている。しかし、この副園長の話から察するに、究極は理論よりも保育の実際の姿から、日本式の幼児教育の在り方を学ぼうとする姿勢が、保育現場に存在していると受けとめたい。よって、隊

員はより良い保育を行い、自分と子どもが自分らしさを発揮して生き生きと遊ぶ保育風景を、肌で感じてもらうようにすることが、日本の幼稚園教育を理解してもらう第一の方策であり、まず、なによりも保育をする姿で勝負しなければならないことを、団長より隊員に講話した。

（2）すばらしき隊員たち

保育の実際の姿をアピールすることから、日本式の保育を肌で感じてもらうことを上記（1）で述べた。それとあわせて「理論」の面からも、日本の保育を伝えなければならない。

どちらかといえば、隊員は「理論」の方を第一とし、理解に迫ったと考察する。そのための研修や努力の跡をたどることができた。

北京の JICA 中国事務所で行った「中国幼稚園教諭分科会」は、すばらしく充実した研修会だった。７人の隊員の青年海外協力隊員精神の具現化への努力と、活動に対する情熱とが旺盛であり、感動させられた。その中で日本の「幼稚園教育要領」の中国版の作成に着手していることに敬服した。日本の幼稚園教育の理念を、まるごと理解してもらうことが作成の動機だったようだが、この作業に着手した隊員たちの聡明さとひらめき、着眼のすばらしさに大きな拍手を送りたい。こういう創造性やみずみずしいセンスが、青年海外協力隊の任務を遂行していく原動力であり、こういう資質や能力を持ち合わせている人材こそ、派遣隊員として選考していきたいと思った。そしてそういう思いで選考した者の願いに応えてくれることを確信させてもらいうれしく思った。中国版「幼稚園教育要領」が完成するのを心待ちにしている。

３－２－２　日本の幼稚園や保育所にもベッドルームを

中国の視察から学び得たことで、日本の保育界に導入してはどうかと感じたことがある。３－１－１（５）に記しているが、ベッドルームの設置である。これに着目したのは、日本社会情勢の変化に伴う保育界の変化によるものである。男女均等法や女性の社会参画に伴い、働く女性の子育て支援をめざした「エンジェルプラン」が実施され、地域の子育て支援センターでもある保育所や幼稚園の運営に変化をもたらした。特に幼稚園は急変したのである。

複合省での総合的支援体制をベースとして構想されたエンジェルプランでは、文部科学省の管轄下である幼稚園も、変容を余儀なくされ、保育時間の延長や預かり保育を行わなければならなくなった。多くの子どもが預かり保育に参加するとは限らないが、幼稚園にも養護の色彩や配慮が必要となってきた。具体的な例示としては、預り保育に参加する子どもにとっては、幼稚園でも生活時間が多くなるので、保育所と同じように「お昼寝」が必要となってくると思う。

中国の場合は、全員の幼児が降園６時までの生活時程なので、一クラスにつき１ベットルームがあるが、日本はそこまでとは言わなくとも、園全体で１ベッドルームくらい特設することが、子どもの発達面から考えて大切ではないかと、各関係省に提起したい。早急にということは実現不可能ならば、せめて、空き部屋の片隅にでも、たたみ８畳か１０畳の空間をつくって、たたみの上に衛生的なふとんで、家庭的雰囲気を味わわせながら午睡をさせてやりたいものである。中国の保育室よりも広いベッドルームの存在を知ったことから、大きな示唆を受けたのである。

３－３　隊員派遣計画

３－３－１　基本方針

第 1 章の冒頭でも述べた通り、中国に対する隊員派遣の重点課題の一つとして中西部地域への積極的な支援を挙げており、幼稚園教諭隊員についても、基本的にはこの方針に基づき派遣を進めていくこととなる。ただし、配属先を選定する際には、園が子どもの育成にかかる方針をしっかり持っていること、且つ隊員が実践する日本式保育がその方針に合致あるいは応用できるものであること、地域の幼児教育普及に貢献できる園であること等を指針として、隊員が充実した活動を展開できる場を慎重に検討する必要がある。

また、活動形態としてはこれまでほとんどが幼稚園現場活動型（クラス担当、巡回指導等）であったが、ここ数年は幼稚園教諭養成校からの要請も挙げられるようになっており、今後は学校配属型の隊員も増加することが見込まれる。こうした学校配属型の要請の場合は、特に学校側が具体的な要請内容を持っているか、少人数授業を実施できるか、カウンターパートとペアで授業を行うことができるかどうかといった点に配慮しつつ、環境の整っている配属先から順に選定することが望ましい。

３－３－２　重慶市内幼稚園への新規派遣

今回要請背景調査を実施した重慶市内の 5 つの幼稚園については、いずれも子どもの育成にかかる明確な方針を有しており、また地方科技や市教育委員会の協力隊事業に対する理解も大きい。これまでは個別の配属先にそれぞれ隊員を派遣してきた中国幼児教育分野であるが、２－３－１においても報告の通り、今回の調査ではこれら 5 つの幼稚園において複数隊員が連携しながら活動を行うことの意義が改めて確認された。日本国内における応募状況を考慮しつつ、計画的な派遣を行うことが求められよう。

３－３－３　幼稚園教諭分科会

中国幼稚園教諭分科会は 2001 年 8 月に発足、これまで主にメーリングリストの作成や情報交換、要請背景調査項目リストの作成を行ってきた。特に、要請背景調査項目リスト作成は他職種の分科会に倣い隊員が自発的に開始したものであり、専門的知識と経験に基づくその成果品は、大変有用なものである。中国の幼稚園教諭隊員はそれぞれの任地が離れているため、分科会を活用して情報交換や意見交換を盛んに行っており、今後とも活動の継続が大いに期待されるところである。

JICA 中国事務所及び協力隊事務局として、今後はこうした分科会の活動成果を関連職種の候補生にも提供するなど、分科会の成果をより有効に活用できる取り組みを目指すことが望まれる。

以上

巻末資料

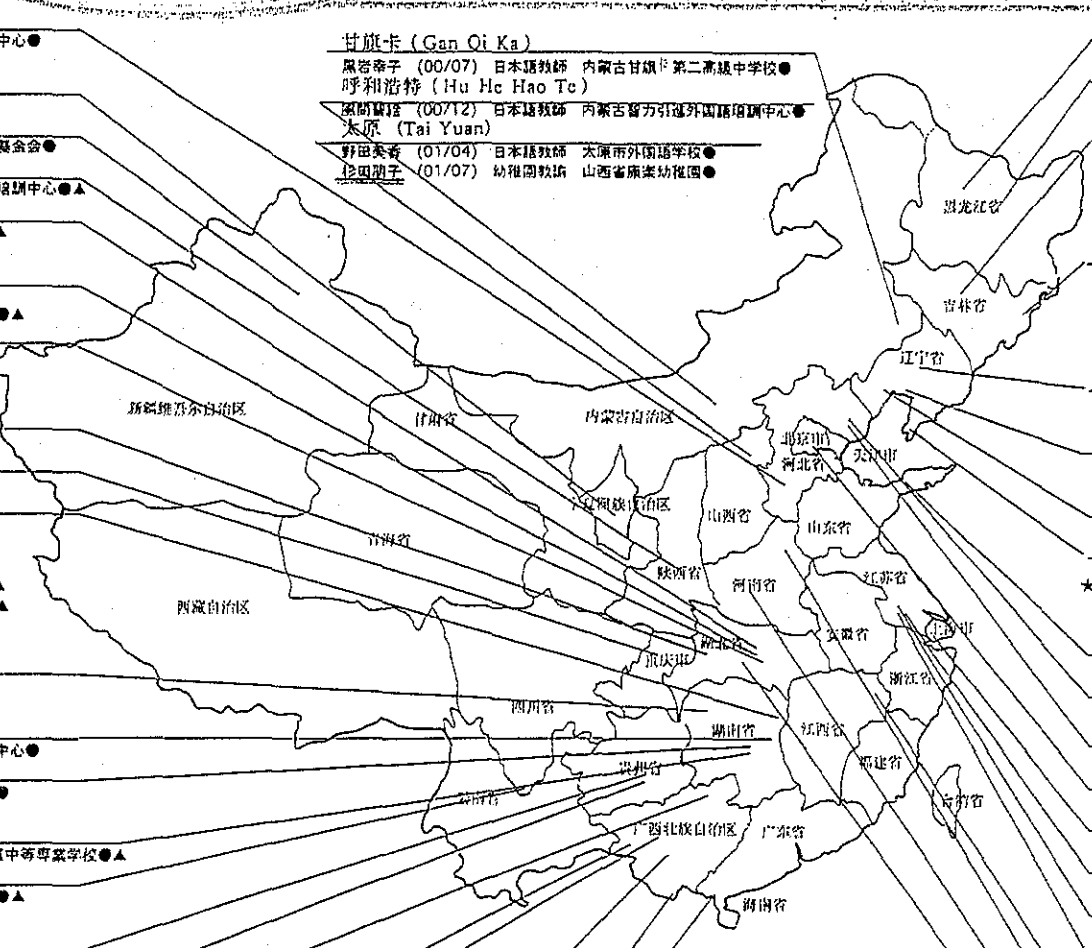
1．　中国隊員配置図（平成14年3月1日現在）
2．　面談／視察記録（調査団作成）
3．　中国幼稚園教諭隊員の軌跡（調査団作成）
4．　重慶市内幼稚園5案件について（調整員作成）
5．　分科会用準備資料（隊員作成）
6．　隊員出張復命書

6.2

在中国青年海外協力隊配置図

国際協力事業団　中華人民共和国事務所
2002年03月01日現在　一般隊員　77名（男子25名　女子52名）
（派遣中）　★シニア隊員　2名（女子2名）　☆短期緊急派遣隊員2名（女子2名）

●電話回線利用
▲携帯電話利用



石家庄（Shi Jia Zhuang）

小川優美　(00/07)　作業療法士　河北省人民病院麻痺中心●
二木佐知子　(01/07)　日本語教師　石家庄外国語学校●

银川（Yin Chuan）

真庭佳子　(00/04)　日本語教師　寧夏大学●

乌鲁木齐（Wu Lu Mu Qi）

★矢田部治子　(01/03)　日本語教師　新疆維吾尔族文化教育基金会●

西安（Xi An）

八杉和子　(01/04)　日本語教師　西安交通大学日本語培訓中心●▲

武汉（Wu Han）

増田富子　(00/07)　看護婦　武漢大学中南医院●▲
藤田敦子　(00/12)　日本語教師　武漢外国語学校●▲

黄冈（Huang Gang）

茂川佳子　(00/04)　看護婦　黄岡衛生学校●
[illegible]　(01/04)　幼稚園教諭　黄岡市代代紅幼稚園●▲

黄石（Huang Shi）

☆鳴海佳恵　(01/09)　日本語教師　湖北師範学院●
藤村美都子　(01/12)　看護婦　黄石市中心医院●
菊崎充美　(01/12)　看護婦　湖北省衛生学●

宜昌（Yi Chang）

松井孝治　(01/12)　観光業　宜昌国際ホテル●

重庆（Chong Qing）

松井美栄子　(01/04)　幼稚園教諭　重慶市渝北幼稚園●

长沙（Chang Sha）

長田真理恵　(01/07)　日本語教師　中南大学●▲
佐藤孔美　(01/07)　水泳　長沙市体育学校●
白石久美　(00/07)　日本語教師　湖南大学●
安藤美保　(00/07)　日本語教師　長沙市第七中学校●▲
山野井真成　(00/12)　花き　湖南省森林植物園●▲
間井千絵　(00/12)　日本語教師　長沙大学●
丸山厚智子　(01/07)　日本語教師　長沙外国語学校●

张家界（Zhang Jia Jie）

福島一成　(00/04)　映像　武陵大学●▲
長山由美子　(00/12)　日本語教師　武陵大学●▲

株洲（Zhu Zhou）

久保恭子　(01/07)　幼稚園教諭　株州市婦人児童活動中心●

湘潭（Xiang Tan）

大井　健　(00/04)　野菜　湘潭市岳塘区蔬菜局●
池末南子　(00/07)　日本語教師　湘潭大学●

芷江（Zhi Jiang）

芝原　圭　(00/07)　花き　湖南省 芷江県民族職業中等専業学校●▲

攀枝花（Pan Zhi Hun）

煤孫康洋　(01/12)　野球　攀枝花市体育運動局●▲

贵阳（Gui Yang）

西野　聖　(00/07)　日本語教師　貴州大学●▲

清镇（Qing Zhen）

佐藤英樹　(01/04)　野菜　清鎮市蔬菜弁公室▲

桂林（Gui Lin）

吉木美紀　(00/04)　看護婦　桂林衛生学校●▲
時本将也　(00/07)　果樹　桂林市園種場●
二宮伸子　(00/07)　幼稚園教諭　桂林第十五中学校●

百色（Bai Se）

古田真也　(00/04)　獣医師　広西百色農業学校●

柳州（Liu Zhou）

小川明美　(00/07)　理学療法士　柳州市人民医院●
[illegible]　(00/07)　幼稚園教諭　柳州市[illegible]幼稚園●

甘旗卡（Gan Qi Ka）

黒岩幸子　(00/07)　日本語教師　内蒙古甘旗卡第二高級中学校●

呼和浩特（Hu He Hao Te）

[illegible]　(00/12)　日本語教師　内蒙古自治区外国語培訓中心●

太原（Tai Yuan）

野田美香　(01/04)　日本語教師　太原市外国語学校●
[illegible]　(01/07)　幼稚園教諭　山西省麻案幼稚園●

南宁（Nan Ning）

天野高宏　(00/04)　野菜　広西農業学校●
下山智洋　(00/04)　婦人子供服　広西紡績服装設計研究所●
辻[illegible]美　(00/04)　婦人子供服　南寧職業技術学院●
[illegible]　(00/07)　日本語教師　広西大学●

防城港（Fang Cheng Gang）

八木恵美子　(00/04)　看護婦　防城港市人民医院●

北海（Bei Hai）

☆磯野裕見子　(01/12)　看護婦　北海市合浦衛生学校附属医院●

大庆（Da Qing）

黒岩正人　(00/12)　柔道　開封市体育運動学校●

哈尔滨（Ha Er Bin）

佐竹千華　(00/07)　日本語教師　ハルビン工程大学●
深山道助　(01/12)　日本語教師　ハルビン理工大学●

长春（Chang Chun）

酒野なな枝　(00/07)　日本語教師　長春外国語学校●
魚住供子　(01/07)　日本語教師　中国赴日留学生予備校●
加藤悦子　(01/07)　日本語教師　長春市第八中学校●
辻　聖子　(01/07)　日本語教師　長春市朝鮮族中学校●
澤田智穂子　(01/07)　日本語教師　長春市第十一中学校●

延边（Yan Bian）

高野源子　(00/07)　日本語教師　延辺耙井高校●
原　絢代　(00/07)　日本語教師　延辺和龍第三中学校●
友貞　新　(00/07)　日本語教師　延辺琿春市教師進修学校●
河本知子　(00/07)　日本語教師　延辺汪清県教師進修学校●
沼里　聡　(01/07)　日本語教師　延辺大学人文社会科学院●

沈阳（Shen Yang）

臼川元育　(99/12)　日本語教師　遼寧中医学院●
渡部真由美　(00/07)　日本語教師　沈陽市外国語学校●▲

营口（Ying Kou）

市橋文子　(00/04)　婦人子供服　営口市中日高級服装学校●
若杉英治　(00/07)　日本語教師　営口民井振興学校●▲

北宁（Bei Ning）

東　香世　(01/04)　日本語教師　北寧市高級中学校●

大连（Da Lian）

吉田幸恵　(00/07)　日本語教師　大連民族学院●
★飯野令子　(00/12)　日本語教師　大連市金州区教師進修学校●▲
杉山　充　(01/07)　日本語教師　大連市第一中学校●
相原幹子　(01/07)　日本語教師　大連市育明高校●

青岛（Qing Dao）

高見彩子　(00/12)　日本語教師　青島海洋大学●

遵化（Zun Hua）

荒関由美　(01/07)　看護婦　遵化市人民医院●

唐山（Tang Shan）

辻村弘美　(01/12)　看護婦　唐山衛生学校●

北京（Bei Jing）

生越大地　(00/12)　果樹　昌平区科学技術委員会●

上海（Shanghai）

中山　愛　(01/07)　日本語教師　上海交通大学外国語学院●

南京（Nan Jing）

金倉美佐恵　(01/07)　日本語教師　東南大学●

无锡（Wu Xi）

野村知行　(01/07)　日本語教師　無錫市東林中学●

镇江（Zhen Jiang）

川上雅美　(01/07)　看護婦　鎮江市医学院付属医院●
松田恵子　(01/07)　幼稚園教諭　鎮江市市級機関第二幼稚園●

南昌（Nan Chang）

天野貴介　(01/12)　日本語教師　江西省旅遊学校●▲

开封（Kai Feng）

真島　賢　(01/06)　電科技工士　開封市衛生学校●

洛阳（Luoyang）

岩下真澄　(01/07)　日本語教師　洛陽工学院●

荆门（Jing Men）

川内生輔　(01/12)　野菜　湖北果樹良種繁育新門中心●

面談／視察記録

日　時	平成14年3月21日（木）　　9：00～12：00
場　所	渝北実験幼稚園
出席者	先方：　園長　37歳　エネルギッシュで眼力のある迫力ある先生 副園長　2名 重慶市教育委員会　黄さん　赤い服の黄さん 任さん　パワフルで元気な話し上手な先生 重慶渝北区教育委員会　陳さん　唐さん 新橋医院幼稚園　陳さん 日本研修帰国した　周さん 当方：　玄田先生、家田調整員、鈴木

＜協議／視察概要＞

1　見学の印象

・子供たちが生き生きしている（園長の影響か）・手遊び

・何にもない道をにぎやかな道にしよう
　長～い道に子供が引きつけられた時の顔がすごく印象的
　折り紙でお家を作ったり、絵を描いたりする（楽しく工夫があり子供たちも楽しそう）
　＜先生のコメント＞

・保育そのものの発想が優しくきめ細かくとてもいい授業だった

・チーム保育のいい姿を見た　＊子供が食いつく魅力ある授業だった

・でも、紙を7等分にして廊下に出したのは失敗・・・
　（せっかく子供たちが長い道に引きつけられたのに、裏切ったようだ）

・場所が狭くて困ったら、子供達自身で考えさせればよい。

・日本の保育を今日のようにもっとたくさんの人に見てもらい、肌でそのいいところを感じ取ってもらいたい。

・公開授業をするまでも、もっと簡単にビデオカメラで授業風景を写し、ビデオで研究する方法もある。→ビデオを一台購入したらいかがでしょう？

・保育をする先生や子供たちの服装がもっと活動しやすく、動きやすい、安全なものにするべき。きれいなスーツやパンプス姿に違和感を感じる。（日本では服装への気遣いを大事にしている）

・一斉保育していないときの遊びは日本では主流で、一番苦労している。本気で子供とつきあうときには先生にとって大変大事な時間。日本も昔は遊びを大切にしなかった。
　遊びの時間の方が一斉保育の時間より苦労する。

・松井さんの保育に対するコメントは後日松井さんから園長に伝える

2　CP問題について

・他の先生たちにも日本の教育を広めたい（園長）
　家田調整員→園長　松井さんの意向伝える

・園長　了解。来学期から周さんと松井さんが週3回くらい巡回で一緒にクラスを担当する

・中国語が更に上手になったら、市全体の公開授業等にもする

3　その他

・周さんが持ち帰ったビデオで研究もしている

・重慶にはモンテッソリーは全くない

・隊員支援経費での購入物を期待している部分もある

面談／視察記録

日　時	平成 14 年 3 月 2 1 日（木）　　14：00～15：30
場　所	重慶市北 bei 区実験幼稚園
出席者	先方：　園長　　他　市科技、市教育委員会 当方：　玄田先生、家田調整員、鈴木

・先生方が制服を着ている（動きやすい薄手のセーター）
・園長の教育理念が子供の遊び場や施設によく出ている
・植物草花がたくさん植えてある・職員住居近い
・日本の園にも園長の姿勢は学ぶところが大きい

日　時	平成 14 年 3 月 2 1 日（木）　　16：00～17：00
場　所	沙区実験幼稚園
出席者	先方：　熊園長　他　市科技、市教育委員会 当方：　玄田先生、家田調整員、鈴木

・立派な施設（大きなプール）（隊員住居は建築中）
・体育の先生が男性で中国拳法を教えていた。・踊り、絵画等の芸術面に力を入れている
・隊員には「交流」を望む。（日本のやり方と中国のやり方の交流。）
・日本語を教えてもらうこともいい。・中国式フレーベル？玩具を使ったクラスあり

日　時	平成 14 年 3 月 2 1 日（木）　　17：00～17：30
場　所	江北区新村幼稚園
	先方：　園長　３０歳（最年少）　他　市科技、市教育委員会 当方：　玄田先生、家田調整員、鈴木

・全託なし・優秀な先生の写真を貼りだしている
・隊員に望むことは他の先生と同じように子供と接しながら、交流を深めて欲しい。
・中国の方法と日本の方法を同等に考えている。・日常の中で日本の歌等を取り入れる。
・そろばんや英語教育が特徴的。他に芸術にも力を入れている。

日　時	平成 14 年 3 月 2 1 日（木）　　17：30～18：00
場　所	渝中区実験幼稚園
出席者	先方：　園長　　他　市科技、市教育委員会 当方：　玄田先生、家田調整員、鈴木

・園長は米国への留学経験があり、随所にその経験が活かされている。
・玩具など揃っており、その日子供が遊んだまま片づけないで残している。
（流れのある保育、小間切れではなく続けることが出来る）
・コーナー保育に力が入っている。・子供の息づかいが最も感じられる。

日　時	平成 14 年 3 月 2 1 日（木）　　18：00～18：30
場　所	南坪実験幼稚園
出席者	先方：　園長　他　市科技、市教育委員会 当方：　玄田先生、家田調整員、鈴木

・新興住宅の建築と共に建設された。・設備が巨大で新しく大変に立派。
・課外活動にも力を入れ、父兄との合同活動も行っている。

面談／視察記録

日　時	平成 14 年 3 月 2 1 日（木）　　12：00～13：30
場　所	昼食会
出席者	先方：　北 bei 区教育委員会教育局主任 基礎教育局　課長他 4 名 重慶市北 bei 区実験幼稚園園長他 2 名、園長 市科技、市教育委員会 当方：　玄田先生、家田調整員、松井隊員、鈴木

・北 bei 区は大学などの学校が多く教育基地、教育改革基地となっている。
・幼稚園基礎教育にも力を入れている。
・師範大学には付属の幼稚園がない。
・中国の幼稚園はコンクールが多い。審査は教育委員会が行う。子供の視点より教師の視点

日　時	平成 14 年 3 月 2 1 日（木）　　20：00～22：00
場　所	夕食会
出席者	先方：　市科技　唐主任、何さん、市教育委員会　任さん、黄さん 当方：　玄田先生、家田調整員、松井隊員、鈴木

・新しい街を作るときには、幼稚園と病院がセットで建築される。
・重慶市内は約６０万人の幼稚園児がいる。
・幼稚園教諭は約２万人以上、幼稚園は１万３千件くらい。
・今日見た５件の幼稚園はどこも整っている良い幼稚園ばかりで、教師も優秀。
・重慶市の幼稚園園長を日本で交流研修させたらいい。
・国家教育部のリーダーは日本留学経験者であり、日本の教育を良く知っている。
従って、教育要領も日本の教育要綱に似ている。
・団長が中国から学んだこと、日本もこれから働く女性の支援ということから、延長保育やエンゼルプランの整備が必要。中国は既に保育時間が長く、今回見てきた幼稚園にはどこもベットが置いてあり、長時間の保育にはやはりあった方がいいと思った。（日本の幼稚園は通常 1：00～2：00 頃には終わる）

面談／視察記録

日　時	平成14年3月２２日（金）10：00～11：00
場　所	桂林七星幼稚園
出席者	先方：園長先生、他市科技 当方：玄田先生、家田調整員、二宮隊員、鈴木

＜協議／視察概要＞
・北京で購入したモンテッソリー玩具がある。
・今までに３名の教師が北京で１８日間の講習を受講済み。
　園長は今年の７月に受講予定。
・何故モンテッソリーなのか→自主性や創造性を養うため。
・同じ教具を使って同じような活動をさせるのに、どうして自主性や創造性が養われると思うのか？
・前任の林隊員を見て、日本のモンテッソーリと中国のは違うと思うか？
　→あまり違うとは思わない。
・モンテッソーリの教室は全部で３教室有り、１教室は縦割りの異年齢クラス。
・園児全員が毎日３０分は必ずモンテッソーリを行っている。
＜印象＞
・静かに熱心に活動をしている。
・園児が自分のやりたい活動の玩具を棚から出して、自由に活動している。
・先生方が、園児一人一人に静かに語りかけるように指導している。
・先生方が、園児一人一人の毎日の記録を取っている。
・先生方の作った手作り玩具が多く、工夫がある。
・自分で片づけも出来るように棚にも工夫がされている。
・一生懸命取り組んでいるため、情緒も安定しているとのこと（先生曰く）。
・先生と園児が一体化しとても良い雰囲気を感じた。良い静かさ。

面談／視察記録

日　時	平成14年3月２２日（金）15：00～17：00
場　所	桂林第１５中学校
出席者	先方：副校長３名　他　市科技 当方：玄田先生、家田調整員、二宮隊員、鈴木

授業の様子

1　玄田先生紹介、ご挨拶

「子供が好きだったら先生になって下さい。子供が好きだったらきっと良い先生になれます。」

2　ペープサート（第２週目）

・実演「かえるの親子」　全部中国語で！美しく流ちょうでまるで中国人みたい！

・講義　ペープサートの作り方について。（学生は板書を写さないのが意外だった。）

・創作活動　グループ分けやストーリー作成は既に１週目でやっている。
今日は、紙に絵を描く。→コピーや画集を使っている人が多かった。

その後の話合い

・保育クラスは全寮制で卒業後は保育員になる。中には師範大学に進み教員になる人もいるが、８０人中１０人程度。

・学校を選んだ理由は、成績のレベルが低かったため。

・３年生は１年間ずっと実習に出てしまうため、フィードバックが出来ない。

・実習内容は名ばかりで保育員の補助的仕事をさせられている。

・卒業時には試験を受ける。

先生・体験してきて、授業を受けることでより実感し話が分かるようになる。

・日本でも悪い保育をしているところはたくさんある。

・主体性とは自分勝手にすることではなく、先生も出るべき所では出なければいけない。→クラス崩壊の元凶と言われ、教育要綱の改訂へ。

・模索しながらどうあるべきかを考えている姿勢は素晴らしい。

・クラスの中に、二宮さんの教えや姿勢の影響がはっきりと感じられた。
何も残せないのではなく、ちゃんと残っている。

・二人の学生が「先生になりたい」といっていた。その子達を大事にして。

・学生の人生に先生の影響は少なからずあるもの。二宮さんの授業を受けた学生は二宮さんの姿が心に残り、絶対に一生教えてもらったことを忘れない。

・授業が終わったときの挨拶（日本語）に心がこもっていた。

・先生にならないのではなく、なれないのであり、もっと魅力を感じさせ、出口を見つけてあげる努力を学校側もする必要がある。

二宮・先生の話を聞き、何をすればいいのかわからないというのではなく、就職したい等の具体的な問題がある学生の気持ちを替えていくことまで踏み込んでみた方がいいと、今後の活動の方向性が見えてきた気がする。

二宮さんと先生はお二人で話しながら涙を流していました。

話し合いの前に、二宮さんが調査団のためにエプロンシアターで「おじいさんの帽子」を演じてくれ、胸がじ～んとしました。話し合いの後、住居を見学。

面談／視察記録

日　時	平成14年3月22日（金）20：00～23：00
場　所	ホテルにて
出席者	先方：二宮隊員、窪田隊員 当方：玄田先生、家田調整員、鈴木

窪田：柳州の先生方はシニア隊員が欲しいといっている。年上の先生でより専門性の高い人が必要だと言うことだ。

家田：要請主義なので科技と配属先がよく話し合って決めて欲しい。ただし、シニア隊員の場合は、一つの配属先に配置されるのではなく、その地域や同職種について広範囲な活動と取りまとめ役として赴任する事を理解してもらう必要がある。例えば、教育局に席を置く事になると思う。

二宮：巡回指導として、週一回回る場合と毎日何らかの授業で顔を合わせる場合、その影響力の違いは大きい。その波及効果は疑問。

窪田：今の柳州幼稚園には公開保育をする余裕はない。モンテッソーリ教育の種類は日本と同じだと感じる。異年齢クラスに対する父兄の理解はまだまだ低い。
中国にはモンテッソーリ協会がない。モンテッソーリ玩具を使えるのは本来モンテッソーリの資格を有している人だけのはず。本来１年係る研修も、北京では１８日間程度で行っている。柳州では複数の幼稚園でモンテッソーリが取り入れられており、北京から講師を呼んだりもしている。

二宮：林隊員一人でやっていたときは、もっと和やかだった。

窪田：今は６人のCPのまとめ役をしている。実際のクラスには入っていない。
３クラス毎朝モンテッソーリの活動をおこなっている。
七星では園の柱として（教育方針の一つとして）モンテを取り入れている。

先生：重慶の視察について、モンテッソーリはあまり聞かなかったこと、日本との交流目的が多いこと、日本と同等な立場での活動を期待していること、日本語の導入も自然に行ってもらいたいという希望があったこと。など

二宮：配属先には自分よりレベルの高い人ばかり、自分に何が出来るのか何か残したいと常に考えてしまっていた。

先生：二宮さんの授業を見て、得る物があった。学生は二宮さんの授業が心に残り、けして忘れない。先生になりたいと思う人が一人でも二人でも増えること、それが目には見えない大きな効果。その人の人生に影響を及ぼし、心に働きかけ、人を変えることこそが、教育。
特に、幼稚園の子供は真っ白いおもちみたいなもの。効果が大きく、良くも悪くも変わりやすい。
二宮先生のクラスで最初と最後の挨拶が日本語でとても美しかった。先生が好き、先生の授業が好きという空気が良く伝わってきた。
授業で一つだけ難を言えば、自分の絵を描かせたい。コピーや主体性のない塗り絵的な活動は避けたい。

窪田：柳州の先生方は、子供がクレヨンで○をかけることが素晴らしいと知っている。

先生：級とか一等賞といった社会主義的教育が没個性を生む。この二年だけでも日本の教育は随分変わったと思う。

面談／視察記録

日　時	平成 14 年 3 月 2 2 日（金）20：00～23：00
場　所	ホテルにて
出席者	先方：二宮隊員、窪田隊員 当方：玄田先生、家田調整員、鈴木

二宮：七星幼稚園の要請が省の科技でずっと止められていた。外国人の影響が大きくなることを避けたいという意図があったと聞いている。

先生：モンテッソーリ教育を受けた子供が、個性的な子供になると思う？

窪田：中国人の子はやはり中国人になると思う・・・。

二宮：中国の子は高校生でもまっすぐで素直。日本の教育が果たして本当に良いのか？

先生：二宮さんの育てたいものが、ちゃんと伝わってきた。ちゃんと息づいている。
子供を育てるためには教師の導きも大切。
協力隊員の役割は相手の利になる事をすること。「交流」の意味は色々とれる。
もっと皆に見てもらえるような授業をし、見ることから感じてもらう。肌でなじんでもらうことが大切。もっと良い授業をしなければ。
先生同士のチームワークが大切。

窪田：中国の先生は、導入や指導が上手で、記録もちゃんと取っているが、終わり方が上手くなかったりする。他の人を評価したり、研究授業をすることも苦手。

先生：良い保育をして周りの人に目を向けさせ、肌で感じてもらいなさい。
園長にも２種類が感じられる。スーツを着て現場に出ない人、子供の中に常にいる人。

窪田：中国に来て子供が好きになった。幼稚園教諭になった理由は卒園して園長先生や先生ににあこがれてだったが、思った通りの先生にはなかなかなれない。
日本にいる時より、教育とは何かを考えるようになった。しっかり見つめて考え、良い時間を過ごさせてもらっている。

二宮：頭の上にあったプレッシャーがすーっと軽くなった。

先生：来た甲斐がありましたね。
誰でも先生になるわけではない。でも教室で２人の生徒がなりたいと言った。
その子達を大事にすることがこれからの大切なこと。

面談／視察記録

日　時	平成14年3月25日（月）　8：40～12：00
場　所	太原市康楽幼稚園
出席者	先方：副園長2名、主任、CP（張さん）、太原市科技 当方：玄田先生、家田調整員、杉田隊員、鈴木

＜協議／視察概要＞

授業視察（小班）

8：40　「大きな太鼓、小さな太鼓」等2曲くらいを先ず中国語で歌い日本語で歌う。

8：45　ペープサート「はらぺこあおむし」　手作りのお人形を使っておはなし。
途中、曜日や果物の名前は日本語の単語も出てくる。
わからない中国語などはCPや園児に助けてもらう。

9：00　次の活動説明、おトイレタイム
工作したい人とそれ以外の人にわかれて、先生方は工作をみる。
それ以外の園児は自由遊び。保育員が見る。

9：30　外へ出て、工作でつくった玩具で遊ぶ。その他の遊具を使って自由遊び。

10：00　中班見学

10：25　モンテッソーリクラス見学
異年齢クラス、遊具は本物のモンテッソーリ教具を使用。
教具が目的別（数学、地理、文字など）に整理されている。

配属先との協議

馬副園長（北京師範大学卒業、今年現職についたばかり）：

幼稚園の概要：園児800人、23班、先生60名、保育員40名、職員全体170名程度
教育委員会直属の幼稚園で、モデル園
1990年以来全国的な教育改革で当園も積極的に政策を取り入れる。
1996年モンテッソーリモデルクラス始まる
1997年初代井口隊員赴任、張先生がCPとなり、後に日本で研修する。
2001年創新クラス（モデルクラス）開講：新実験クラス、社会性育成
先生対象の勉強会や公開授業なども積極的に行っている。
園にテレビモニターやコンピューターを導入し活用している。
毎週金曜日にコンピューターの研修会を開いている。
今はまだ園児は利用できないが、現代化を学んでもらいたい。

玄田：新しいクラス（3歳児クラス）ができ、井口隊員の時にはCPと一緒に活動できたのに、何故杉田先生は3歳児クラスと4歳児クラスを掛け持ちで、3歳児クラスのCPがいないのか？

副園長：CPは現在4歳児クラスの責任者であり、来学期は持ち上がって5歳児クラスを担当することになる予定。

玄田：3歳児クラスは新しいクラスでとても大切なのに、CPがいない。

副園長：井口さんの時は言葉が通じなくて、初めはお互いに苦労をしたが、今はCPが日本語が出来る。
井口さんの協力効果は、いる間にはあまりはっきりとわからなかった。しかし、帰国してから徐々にその効果が感じられ、今回時間は空いたものの再度要請をすることとなった。

面談／視察記録

＜協議／視察概要＞

玄田：井口隊員の成果が出たから杉田を呼んだとのこと、どういった活動を隊員に求めていますか？

副園長：教育の一つの方法として、日本で行われている教育方法は勉強になる。
子供達がその活動を通して、親も一緒に活動する効果はとても大きい。
例として廃材利用、洋服やはさみを使った工作、技術や創造力が優れている。

玄田：残る期間、杉田に望むことは？

副園長：中国語での交流がよく出来るように、言葉が通じれば、色々教え合うことができる。方法や理念などを伝えてもらえる。

玄田：・CP と隊員のコミュニケーションは、一緒に活動することが最も効果的だと考える。杉田隊員のクラスを見ている分には、特に授業中のコミュニケーションで問題が有るとは感じられなかった。
・言葉で伝えるのではなく、やはり保育をしていて肌で良さを感じ取って、学んで欲しい。

副園長：一代目と二代目とで同じ活動をするのか、それとも日本側に何か意図や計画が有るのかを知りたい。

玄田：杉田先生は三歳児と四歳児を掛け持ちで先生達と会話をする時間がとれないのが現状。どちらか一方にしてあげた方がいいのでは？

副園長：父兄から、日本人の先生に教えて欲しいという要求があり、仕方がない。
ただ、授業の時間を短縮することは可能。

杉田：ぶつ切り保育になってしまうので、それは良いとは思えない。

玄田：クラスが小間切れなのは日本の保育方法的には望ましくない。
クラスを四つに分けて自分の好きな遊びをさせていたが、その後全員外に出させていた。皆が自分で選んだ遊びを途中でストップさせられたことになる。
遊びは一日一回で済ませるものでなく、毎日少しずつ続いていくもの。

副園長：井口さんを見ていて、こちらも感じました。
日本ではクラスの人数は少ないですか？

玄田：大体 25 人くらいです。先生は一人が普通です。教育も保育も生活面も全て一人の先生が面倒を見ます。生活の全てが保育であるという考え。
日本は一人一人を大切にする保育。

副園長：理論ではわかっていても、行動が伴わない。実際の活動では人数が多くて出来ない。

玄田：簡単なことでは、外で遊ぶとき、もっと安全で活動しやすい靴にしてあげたらどうか。

副園長：理論ではわかっている。
以前は教師が保育計画を立てていたが、今は井口隊員の影響で、教師が子供達を見て記録をし、その後の計画に活かしている。

その他

玄田先生の気づいた点

・お誕生表があるのは、杉田さんのクラスだけだった。

面談／視察記録

日　時	平成14年3月26日（火）13：30～18：00
場　所	JICA中国事務所会議室
出席者	中国幼稚園教諭隊員　6名　、玄田先生、家田調整員、鈴木

＜協議／視察概要＞

1　玄田先生あいさつ

2　視察しなかった園の報告

①久保隊員

・3/22にCPが日本の研修から帰国したばかり。一緒に日本クラスを担当する。
・日本は一人一人を大切にし、先生と子供の距離が近く、遊びの中で色々学ぶ。
・子供の主体性を大切にしたい。
・日本式実験班「さくら組」1ヶ月たったところ。
・他のクラスは3～4人の担任が担当だが、さくら組は2人だったため、昼休みもないほどの忙しさだった。
・園児の半分くらいは全託で、生活面のお世話などもする。

②岸本隊員

・赴任後1年たつところ。
・CPが変わってしまった。今までに3人くらい変わった。
・自分のやる気がでて、やるべき事が見えてきたところだったので、残念。
・やる気と環境が釣り合わず、CPに対し厳しい言い方をしてしまったりする。
・日本クラスといっても、日本人と触れ合うことだけで満足されてしまっている。
・日本の「子供と向き合う保育」を目指したい。
・これから2週間に1回くらいはビデオなどを使った講義をしていきたい。

③松田隊員

・園児は毎日帰宅する。
・お勉強熱心な園（お絵かき、速読、算数など）
・日本の技術を活かし、自由遊びを活かした活動をしたい。
・伝えたいときに伝えたいことが言えない。
・遊びよりお勉強という風潮にあらがうことが出来ない。
・導入の仕方はよく見てくれて、ほめてもらっている。
・朝から帰るまでをトータルで評価してもらうには至っていない。
・見てくれているところから始めようと思う。
・CPと話をする機会がなかったが、もっと話す機会を持ちたい。

＜協議／視察概要＞

④窪田隊員

・他の園を見学するとおのおのの違いを実感する。
・残り３ヶ月となった。
・モンテッソリークラスは３クラス有り、授業を担当せず６名の CP 指導
・１年目は教具、教材の準備をすすめた
・２年目から父兄の相談や質問を受けるようになった
・今後は資料整理等にも取り組む
・去年より今年の方が確実に授業や良くなっていると感じる。
一日や一週間では分からない変化だが、二年間の活動期間の意味が分かった気がする。
・日本語を教えて欲しいという要求が強く、週三回日本語ミニ講座を開くことに。
（一年半はやりたくないと断っていたが、やりたくない子には教えない、単語などの簡単な導入だけしかできないということを条件に、やむを得ず始めた）
・３クラスの進み方等に差が出てしまい、自分がなんとかしなければと悩むが、園長は、担任の力量の差だと言ってくれる。
・最近は先生方が計画を作り、見せてくれる様になった。

3　視察報告

①松井隊員

・先生方からは目に見える効果、新しいものや見栄えの良いものを期待される。
・表現の楽しさなど、目に見えない大切なことを伝えたい。
・出来ない子にも一つでも出来るようにさせることに努めたい。
（中国は出来ない子はそのままにしてしまう）
・一人一人を見ると言うことを伝えていきたい。
・今後は公開保育を増やし、どう思ったかなどを話し合えるようにしたい。
・視察後、廊下に絵を貼ったところ、数人の子が絵を見ながら話していた。
→流れのある保育につながった。

②杉田隊員

・３歳児と４歳児のクラスを見るため、先生方との話し合いが出来ていない。
・活動内容の紹介（朝の会、ペープサート等普段心がけていること）
・CP については以前の分科会で報告したとおり。

③二宮隊員

・二宮隊員が欠席のため、窪田隊員が報告

＜協議／視察概要＞

4　先生からのお話

玄田：・お役に立ちたい、たてると思ってきた。
・皆の疑問や問題点の現状をみたい、レベルの高さについて実態を把握したい。
・要請のレベルが高いので、選考の時にもしっかりした考えをもった人を選ぶ。
・杉田さんの活動について、春の虫を見つけ子供と話をしながら活動につなげた。
・日本の保育を伝えるときに具体的な姿をとらえ、先生方を変えていく必要。
・本来好きな遊びであれば、子供は自然と好きでやる。
・一つのクラスを保育員と２人以上の先生が見ているチーム保育は学べる点。
・一人一人に目を配り一人一人に関わる保育を事前に打ち合わせる必要がある。
・失敗や困難に際して初めて成長をする。
・CPとの人間関係について、ドミニカでの体験話。
・辛いこと、苦しいことを変えようと善処していくことが大切。
・日本の教育に活かして欲しい。
・中国の良いところを活かしながら、２年間で出来ることを見つけていく。
・幼稚園の子はしなやかで変わりやすい。白くて柔らかいおもちのように良くも悪くも変わる。
・良い保育を見せるためには良く準備もすること。
・理論より体で感じてもらうこと。ビデオも有効に使うこと。失敗も見せる。
・実践で勝負し姿を見てもらうことが一番効果的な方法。
・共感でなく、共有出来るまでになればいい。

5　質疑応答

岸本：初代のため、CPに距離を置かれてしまう。自分の言いたいことを抑えて、意見のぶつけ合いが出来ないのがもどかしい。

玄田：人間関係は難しい。親しい人、好きな人から近づいていけばいい。

久保：与えられている環境の中で、日本と比べて分からないことがある。
例えば、①お昼ご飯の時、こちらではおしゃべりをしてはいけないといわれる。先生方が言うことは「早く」「静かに」だけ。ご飯は課題か餌のよう。先生に聞くと、気管が細いから、エチケットのためというが、理解できない。
②全託児の父兄が迎えに来る間の活動について、先生方に聞くと、きちんと静かに見える活動をというが、自分は自由な活動をしていればいいとおもう。
これらが本当に中国人にとって良いことなのかと疑問。

玄田：いつかは伝わる、真実は一つと考えて出来ることから気長に頑張るしかない。

松田：教師の問いかけに自然に声を発して答えるのは悪いことではないと思うが、中国人の先生は手を挙げなければ答えてはいけないと言う。

玄田：先生方と話し合わなければいけない

窪田：自分と園長は意見が合うことが多く、言葉が足りなくても最小の言葉で理解してくれる。

＜協議／視察概要＞
久保：半年に１回園児募集をする。時間を柔軟に使える事が望ましいが半年に一度の評価で子供の成長が見られるか不安。
玄田：親に啓蒙活動、PR活動する必要がある。写真を貼ったり、クラス便りをつくる。
久保：写真は貼ったりしている。
玄田：・子供が楽しく息づいているクラス造りをすること。
・親の方でなく子供を見る。
・子供の発達の節目を見極めること。
・楽しそうだと思うことをさせる。
・イメージを持つ。
・日本の保育は四季を大切にし、環境を大切に考えている。
・一人一人個性を見つけて発揮させる。
・日本的なクラスのイメージを自分でも持つことが必要。
・見つけた遊びをさせること。
・子供の目を見て、子供の方を見た保育をする。
・小間切れにしない。
・あてがわれた環境の中で、設計図を描いてやってみる。
・必ず共感する人がいる。
岸本：保育参観について、父兄のおしゃべりがうるさい。
玄田：小さいグループにするなど対処する。
岸本：良く掛けた絵しか貼らない。
玄田：視察で明らかに上手すぎる絵が貼られているので驚いた。
訴える力のある、説得力有る保育をして、見て感じてもらう。
全託の子の夜の生活がどうなっているのか知っていますか？
誰が着替えをさせるのか？連絡帳はあるか？
皆：時間的体力的な余力がないので、あまり良く知らない。連絡帳はない。

面談／視察記録

日　時	平成14年3月27日（水）　9：30　～　10：00
場　所	国家科学技術部JICA項目弁公室
出席者	先方：Pan　仁峰氏 当方：玄田先生、家田調整員、鈴木

＜協議／視察概要＞

1　団員紹介

2　団長挨拶：地方科技への感謝

3　視察報告

Pan：隊員報告書が大変有益

玄田：中国の良さを理解し、日本の良さと交流させることが、子供の幸せに通じることを祈ります。

・隊員はやりたいことをやらせてもらっている。
・隊員の中には人間関係についてもっと努力しなければならない者もいる。
・中国の先生方や子供たちの服装や靴について気づいた点。
・全託の制度について、3歳児などにとって本当にふさわしいのかどうか。
・長い時間の保育について、日本にとっても今後の課題。
・日本の幼稚園より建物が立派で人数も多く、規模が大きい。
・中国も貧富の差が激しいが、今回の視察では貧しい子の保育を見ていない。そういう所からの要請があれば是非隊員を送り、協力隊精神を生かしたい。
→要請があがれば出していきたい。貧困対策も中国の課題。

中国幼稚園教諭の軌跡

1　広西壮族自治区柳州市幼稚園：保育レベル高く日本の教育方法はかなり浸透しているものの、モンテッソーリの十分な理解、正しい展開が望まれる。
諸外国との交流や研修機会を得ることが難しい背景があるため、隊員からの教育方法紹介に大きな期待を寄せている。
４代目の隊員をもって協力成果を見極めたい。

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	中国的保育の特色
小林　節子	・日中友好 ・保育方法、遊具、教材の紹介 ・自由時間の使い方 ・先生と一緒に教具作り ・想像力を生かした保育内容 ・想像力を生かした保育内容 ・楽しく圧力のない時間にする ・目立たない子を見つめる	・言葉（方言） 子供への声かけが難しい	・美術 ・音楽 ・環境（壁紙など） ・盆踊り ・廃品利用	・保育時間が長い　・一クラス３０～４０人 ・踊りのレベルが高い　・担任２人、保育係１人 ・体が柔らかい　・動物の鳴きまねが異なる ・毎日同じ時間割、日本の学校的スケジュール ・一人っ子政策の影響；大人が面倒を見過ぎて一人で何も出来ない。依存性強く自己中心的。 ・先生が作品の出来ばえにこだわる；子供が失敗を恐れる。好きなことを好きなようにといっても何をすればいいのか聞いてしまう。
市橋　未帆	・未来は開かれる ・望まなければ始まらない ・希望を持ち努力すればかなう ・世の中の楽しいことを教える ・泣いている子に笑顔を ・餓えている子には食べるための知恵と、心温まるものを ・子供の自主性 ・手作りのぬくもり ・リトミックを通して； 音楽を楽しむ、 創造力を高める 自己表現をする ・応用する ・日本の歌を中国語で教える ・公害への意識を高める ・言葉遊び（日、英、中）		・踊り ・エアロビ ・手遊び ・リトミック ・音楽 ・ウインドー飾り （手形の鯉幟） ・組体操 ・相撲 ・新体操 ・バレエ	・行事が多い ・テレビ等への出演依頼が多い ・保育コンクール；この機会に先生方への技術指導が可能となった ・完ぺき主義 ・一人一人では頑張るが仲間と協力していく姿勢はあまり見られない ・自分のミスも友人とともにしたミスも相手のせいにしてしまう ・中国人の先生方のモラル（外出先でゴミを平気で捨てる、我先に乗物に乗込む）が子ども達にも影響する <その他任期中の出来事> ・任期中に洪水の被害にあう；中国人の強さ、忍耐強さ、優しさを知る ・CP の先生が日本で研修

4　桂林市第十五中学（桂林旅行職業中等専業学校幼師班）：地域ではレベル高いが、諸外国との交流研修機会が少ない。隊員からの教育方法紹介に期待を寄せている。２代は必要と考える。

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	要請内容	中国的保育の特色
二宮　伸子	・日本の幼稚園を紹介する ・日本語を指導する ・日中の友好関係を深める ・自分がいかに必要とされているものを提供できるかを考える	赴任当初は言葉の問題もあり、幼稚園教育のレベルも高いため、授業見学や日本の現状紹介くらいで自分に何が出来るか模索。専門にとらわれず、これまでの自分の経験を伝えることに力を入れる。 →軌道修正が必要 調整員との面談 調整員の巡回指導 （配属先への説明） 養成校にいると現場の様子が全く見えてこず、日本とどこが違うのか、こちらの現場で何が必要なのかがわからない。→見学実習開始 技術指導は出来るが、根本的な子供との関わり方や遊びの大切さ、教師としての心構え等を伝えることが出来ない。	１号報告書 ・旅行日本語班等で週４時間日本語授業 ２号報告書 ・調整員と面談 →来学期からピアノ指導と見学実習 ２号報告書時点ではまだ模索中 2002.3 現在の活動状況より ・ 2001.9～2002.2 まで 週 10～12 時間の授業と週 1 回の市内幼稚園の視察 日本語と幼稚園の並行活動 ・現場の先生に日本の保育を紹介する活動は数回のみ 今後の活動計画 ・絵本や児童文化の教材作成及び紹介 ・リトミック	・実習指導	・幼稚園教諭養成学校なのに、付属の幼稚園がないため実習での指導が出来ない →一番効果的だと考えていたアプローチが不可能 ・実習先の幼稚園では保育員の補助をすることが多い ・卒業生は殆ど幼稚園に就職していない **要請背景調査について** ・2002 年冬の隊員総会・幼稚園分科会にて、付属幼稚園の有無、実習形態卒業後の進路など背景調査の際に調べるべき項目リストを作成、提出

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	中国的保育の特色
川合　恵	・関心を示す教師を見つけ共に考え信頼関係を築く ・モンテッソーリ教育関係者と連絡をとり多くの情報交換を	・隊員活動に対する協力がほとんど見られない ・CPがいない ・語学力 ・園内行事の多さ	・モンテッソーリモデルクラス４クラス →10 人の教師が自主的にモンテッソーリを取り入れたいと申し込み ・子供達が楽しみにする体育（ドッチボールなど） →子ども達が体育をたのしみにしてくれる	（体育に関し） ・意味のない動きを基礎知識無くさせておりつまらなそう ・教師の応用力がない ・体育をただの遊びととらえる ・子供が遊びの中で学び成長することをわかっていない ・独自の教育観念が固まっている ・コンクールや試験や検査などが多い

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	要請内容	中国的保育の特色
窪田　景子	ゼロ号報告書 ・モンテッソーリモデルクラス巡回指導 ・父兄のモンテッソーリモデルクラスへの意見聞き取り調査 ・協力隊員とかかわった園児の追跡調査 ・現地大学生との交流 ・周辺幼稚園との交流 ・隊員同士のネットワークづくり ・縦割りクラスの導入と問題点 １号報告書 ・日本の保育の現状紹介 ・中国の１０年後を考える ・教具の扱い徹底 ・教師の自然科学知識強化 ・感動を生む保育の実践 ・中国人教師によるモンテッソーリ ・教師の子供を見る目を育てる	２号報告書 ・中国でのモンテ指導者がいない 情報が入らない 中国式になる コピーであり本物にはならない →モンテッソーリ協会出来て欲しい ・色彩に乏しい ・異年齢クラス：クラス運営が困難 ・どの子も平等に（コネとメンツ）	・教具の扱い ・消耗品の補充 以下まだこれから ・父兄への啓蒙活動 ・記録方法の模索 ・CP６人との連携 ・子供の名前を覚える（発音が難しい） ・保育室で使う言葉を覚える ・色（画用紙、クレヨン、水彩絵の具）を取り入れる ・音楽音量を適当に ・職員同士が気持ちよく働くためにはどうしたらよいかを考える	・モンテッソーリ教育の指導 正しい教具の利用法 展開方法 モデルクラスの子供指導 教師育成、技術指導	・家長教育（保護者の教育）が必要 子供への説明が出来ないのに癇癪を起す ・モンテは個人の人格の成長を促す（競争意識と無縁）中国教師が受けてきた教育と違う ・教師が育った環境によりモンテに向き不向き ・園がモンテを導入したい目的が不明 ・中国式のモンテ ・計画は形どおりで打ち合わせがない ・幼稚園の通知プリント配布まだ出来ない ・子供の記録をとっていない（意欲はあるが） →蓄積したデータを JICA と人民日報が立ち上げた Web に公開出来るように園長先生に依頼中

2　広西壮族自治区第二保育園（南寧市）

保育レベル高く、政府機関の子供たちが通う。子供の自主性を高める保育を展開しようとしているが、新しい技術、教育方法に乏しく、楽しく学ぶ技術が不足している。異なる分野（音楽、美術）で、異なる角度で（総合的、部分的に深く）2～3代にわたる協力が望まれる。

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	中国的保育の特色	
長田　美紀	1いかに活動に興味を持たせるか 興味→意欲→集中 2強制的にでなくいかに集中させるか 集中：自ら話を聞く態度を養う （中国では力で抑えようとする） 3総合的な保育（体系的な） 幼児の生活を中心とした保育 日本的教育方法の紹介 4思った事感じた事を表現させる 5先生方の技術面での向上 ・子供たちが何を望んでいるのか ・子供達にとって今何が大切なのか ・だから今何をすべきなのか →やがてこのうち4つの目標が市の教育委員会の目標と一致していることが判明 活動成果（理念に対し） 1現状を変える事難しい 2中国人教師と課題一致し徐々に取入れられた 3巡回型では難しい 中国では複合保育（単に領域を組み合わせる保育法）すら非日常的→配属先のニーズではなかった 4語学力がついてから成果を感じた	・言葉 ・配属先とのニーズのずれ 配属先は単なる技術的な日本の工作紹介、マンパワーを望んでいたが、隊員は保育方法の基礎（理念的なところ）を伝えようとした。 →調整員を交えて懇談したが理解を得られなかった。 （活動の難しさ：ニーズにだけこたえていればいいのか？）	・日本の紹介 （視覚的教材活用） →日本の教育方法紹介 ・リトミック（自己表現） →中国の子供にとって答えが複数、自分で考え表現する事は難しい ・簡単な日本語 ・音楽中心 ・集中を促すテクニック（イスの位置、手遊び）	要請内容 ・音楽やダンスにおける日本の新しい技術、表現方法 ・大型製作美術 ・幼児体育 ・ごっこ遊び、日本的遊び、楽しみながら出来る保育展開 ・英語 ・中国人教師への講習	・保育時間が長い　・園児数が多い　・物資不足 ・レベルは高い　・衛生観念あり　・個性ほぼ無視 ・能力を生かす（音楽や芸術）　・集団一斉保育 ・子供が自分で選択しない、一方的受身 ・「愉快教育」学ぶ事に興味を持ち楽しむ ・指導教案書に則して指導計画をたてる →やや詰め込み式、教師の余裕がない 教師の特色が出せない ・教案どおりに教えているかをためす抜き打ち試験がある（各クラス5名に質問などをする） ・先生の等級制、検査、政治学習の試験 ・大まかな年間計画しかなく突然決定、変更する 1　環境的問題 ・巡回指導型の為一コマークラス分の時間が短い ・教材不足　・人数の多さ ・屋外で遊ぶ場所と時間がない ・子供の心理理解と自主性の尊重が必要 2幼児教育に対する現状と理想の差 ・理想は楽しみながら学ぶ　・親は知育教育志向 ・楽しく学ぶが理解されるのには時間が必要 ・お手本をいかに真似るか→徐々に個性重視に

広西壮族自治区第二保育園（南寧市）

１クラス２教師１保育員　園児数 733 人　学前班３クラス　大班５クラス　中班６クラス　小班５クラス

教職員数　86 名　トップ５名　行政４名　教師 42 名　保育員 21 名　その他 14 名

→岩出隊員の活動を通じ、99 年４月からモンテッソーリ教育を園の特徴とする事となり、教師が北京などでの講習会にも参加する等積極的な（急激な）方向転換を図っている。

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	中国的保育の特色	
岩出　可奈	・１号からモンテッソーリ教育導入について、柳州市幼稚園を見学した報告書として、園に提言以降、一貫してモンテ導入のリーダーとして、園全体を指示し動かしていく（指導者） ・中国化モンテではなく、真に世界共通の確立されたモンテを導入することが中国の為になる ＜教師に対し伝えたかったこと＞ ・教師は楽しく嬉しい意味のある大切な仕事だという仕事の意義 ・教師である喜びや感動 教師が楽しくなければ子供も楽しめない ・心からの思いを伝える事こそ教師の喜び	・（協力隊が派遣されるどの職種、配属先でも）中国は目標設定が素晴らしく、まれにそれに沿って高水準の技術を有する。しかし、目に見えない部分への配慮、精神面への考え方が我々日本人とは著しく違うため、活動を通して隊員がぶつかるのはこれらの問題点であるし、殆どの隊員は皆同じような悩みを抱えている。 ・国としてモンテッソーリ教育の特徴の一つである縦割り教育が無理 →全学年横割りのまま活動している	・モンテッソーリ教育の導入（基盤作り） ・２号報告書に詳しいモンテの教案あり ・教師向けモンテッソーリ教育の講義 16 名の教師に講義	園の希望 ・モンテッソーリ教育の導入 ・当初１学年１クラスが５クラスをモンテクラスにする	・幼稚園に通える子供は比較的裕福な家庭 ＜２号報告書：日中の保育の違い＞ ・１０時間半保育（7：30～6：00） ・授業と生活と遊びは切り離されたもの ・幼稚園教師の役割とは授業を行うもの ・知識を与えることに重点 ・定められたカリキュラム ・ついていけない子へのフォローはない ・規模人数が多く、計画は流動的 ・園内コンクリート ・トイレトレーニングなし　股割れパンツ　どこでもOK ・３食とも園で食べる ・食べ物の骨などを机上や床に捨てる ・食後の歯磨きはない ＜モンテッソーリ教育について＞ ・研修を受けたというが、本来のモンテッソーリ教育とは違う形式 ＊ 中国化モンテ ・宗教思想を無視しテクニックのみ導入（社会主義なので仕方がない・・・） ・保育形態（縦割り）保育室設置環境の違い、教具の提示方法など （決まった時間だけモンテ後は授業）

3　山西省康楽幼稚園・２代目をもって中間報告とする

・自主性、独立性、個性を重視した保育　・モンテッソーリ法や諸外国からの交流を積極的に取り入れている　・日本の保育法は少しずつ浸透

・モンテッソーリのクラス、北京の教育方法を取り入れたクラス、など違った教育方法を取り入れた実験クラスが４つある。日本の保育クラスがさらに増えることとなる

・CP と園の協力姿勢、行動力、柔軟性はすばらしく、協力効果が高い　園長も先を見る先進的な方　・初代は CP２人だったが９９・９～一人が日本へ研修に

・１代目により教材や保育方法の導入を CP に行ってきたが断片的であるため、公開保育等を通して広く理解実践してもらえるように指導する必要がある

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	中国的保育の特色
井口博恵	・日本には日本の中国には中国のよさがある ・カウンターパートと良好な関係 ・自由時間、戸外活動を活用する →実際とてもすばらしい協力体制で大きな成果をあげた ・子供を勝手に遊ばせるのでなく、先を予想し次の教材素材準備 ・子供と一緒に遊び共に感じる ・子供が必要としているときは聞き、そうでないときは距離を置いて見守る、記録をとる	・受身に慣れている子供に突然の日本式保育は難しい	・日本語の授業（日本の紹介） ・自由時間を利用し日本の自主性を尊重した保育→徐々に時間を延ばす ・子供が本当に遊ぶ時間を確保する ・教師も子供と遊ぶようにする ・子供一人一人何を考えているのか内面をとらえていく ・教案作成と保育記録（日本のやり方で現地教師が書く）	全託：午前７時から午後８時まで、教師二人、保育員二人がペアで午前午後交互で担当　３回の食事、体操、授業と忙しい ・先生が子供に対して「早く」「だめ」と言うことが多い ・全員が同じものを使って遊ぼうとする→一人一人を大切にするべき ・子供への要求が多く、知識を与える授業が多い→自由時間の活用 ・遊ぶための自由時間が先生の休憩時間になっている ・見栄えがよいものが作れたときは高い評価をしてもらえる →表面的な見栄え出来た出来ないでの評価でなく見えない部分での子供への理解が必要 ・理論的には理解されていても実際の現場で取り組むことは難しい ・隊員の活動は、一人一人違ったことをして子供の状況が把握できるのか？ 学習能力や知識は授業をしていたときより劣らないか？と疑問を持たれる →見えない部分が多くまだ理解されていない　しかし、CP や園長は未来の保育の見通しを持っており、そのうち子供中心に捉えていくこの保育がそのうちやってくることを確信し、協力的で２年かけても難しいと思われた事が次々改善されていった
杉田朋子	・中国の教育方法を理解し自分の保育にも取り入れていきたい ・遊びが日々つながっていく環境 ・自分が好きで人も好き、常に明るい笑顔で接し子供を愛すること ・先生も時には失敗もする ・子供たちの目線で物事を考える ・表面だけで物事を見ずに深く見ていく目を持つこと ・保護者と共に子育てをしていく ・言葉だけでなく表情や態度からも気持ちをつかんで話す	・２クラス担当のため多忙 ・教師交代制できつい ・日本語を覚えさせたがる ・日本の方法は「遊び」と認識される ・2002 年 3 月以降の活動時間が未定 ・日本語の導入について CP と意見の対立	ゼロ号報告書 ・日本の同僚や子供、高校生たちに中国の紹介 ・地域との交流 ・中国の躾を理解し日本の保育は躾がないとの誤解を解く ・遊びが日々つながっていけるような環境、仲間作りを重視 ・配属先の先生方と定期的に講習会を持持ちたい ・異年齢での活動導入	要請内容 ・四季、行事、科目にあわせた着眼点、教材、手法 ・モデルクラス指導（今年度から２クラス） ・同僚への指導方法紹介 ・公開保育 １　組織・０～３歳：衛生部主管の託児所 ・３～６歳：教育部門主管の幼児園 （日本のように同年齢の子供が保育園と幼稚園という異なる組織に通うということはない） ２　形態・日託：全日制保育 全託：寄宿制保育 ３　就学率・33.6%（70%が就学１年保育） ＊ただし農村部ではほとんど受けられていない ・３食給食で働く親のニーズに応えている→子供は可哀想（幼い内に特定の人（親）から愛情を十分注がれる事も大切） ・知識を詰め込み人間関係や生活面が二の次 →異年齢活動を取り入れ人間関係を大切にした活動を ・椅子に座らせただ待たせておく時間が多い

5　重慶市渝北幼稚園：

児童の知性と素質（体・操作する力・考える力・探求心など）を高める保育を重視しており、諸外国からの交流を積極的に取り入れている。日本の幼児教育法は少しずつ浸透しており、教師が与えるだけの保育を展開するのではなく、子供の興味に合わせた保育を検討、アレンジするなど、園全体に変化が見られる。部分的な技法だけでなく、総合的な保育法の取得を望んでおり、中国のレベル、保育環境に取り入れられる教育法を模索し、共に検討したいとしている。2代目の派遣をもって中間報告としたい。

園児数　約４００名　（大班：２クラス　１００名，　中班：４クラス　１００名、　小班：４クラス　１２０名）一クラス３名担任（２人の教師と１名の保育員）

職員数　５３名（教師：21名、保育員：10名、園長：1名、副園長：3名、調理員：4名、医者：1名、警備員兼用務員：1名、事務員：2名、電気機器係：1名、買い物係：1名）

	目指したもの、理念	問題点	活動力点		中国的保育の特色
仲井幹恵	・理論（目に見えない物）を伝えるよりも、実践的な事を伝える方が中国には合っている	・言葉がわからないので子供の気持ちを理解してあげられない ・同僚が前で授業する形態に慣れているので、自由遊びを面倒くさがられる	・日本の幼児教育紹介 ・同僚に簡単な日本語を教える ・設定保育（一斉保育）集団遊び、制作、リズム，絵画 ・自由保育（子供が自分で好きな遊びを選んで遊ぶ） ・同僚に子供の捉え方、教師のあり方を伝える	成果：２年を通じ３名の CP と１クラス担当。一方的に教える保育ではなく子供の要求に応じた保育を展開。一つの教材だけでなく色々な遊びや学習環境から子供のやりたいことを選択させてあげられる保育形態を受け入れられるようにした。ただ、1クラスの人数が40名と多いため、基本的な生活習慣を身につける、子供の動きや状態を見守って保育を進めるなど、ゆったり保育をすることの難しさがある。 最終報告書に日本と中国の保育観と日本の保育紹介について詳しい	・授業を行う感覚　・人数が多い ・理解有る数名を伸ばし後はその他大勢 ・個々の心の中を見ようとしない ・せっかく礼儀道徳習慣を学んでも理論だけで、教師が自由時間を共に過ごさないためその場に直面したときの対応がわからない ３号報告書に中国と日本の保育比較の記述： ・中国の先生は子供を集団でとらえ、子供同士を比較する（日本の先生は個々を見て、その子供の以前の姿と比較する） ・物を大切にしない ・時間割が決まっている・危険な事をさせない ・活動以外は比較的自由だが、行動の時間が細かく区切られている

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	要請内容	中国的保育の特色
松井里栄子	・中国が今求めている幼児の姿を理解し、よりよく成長していく保育方法を同僚らと探っていく ・限られた時間の中で幼児の姿を見極め計画性有る保育を ・遊び一つ一つにも意図を持ち育てたい幼児の姿と今の幼児の姿を照らしながら展開	・日本での CP 研修を終えた同僚と同じクラス担当になれない→園長に交渉中		・モデルクラスへ指導 ・同僚教師、近隣教師への指導紹介 ・公開保育	・活動が小間切れになりがちで、流れを持った保育が出来ない ・見通しを持った保育の大切さが伝わらない ・様々な要因から幼児一人一人の姿に応じた保育が重要視されていない ・幼児の遊びが軽視されている

6　湖南省株州婦女児童活動中心（９６年設立）　　市認定の教育モデル園。職場で働く婦人の福祉向上、ネットワーク作りを目的とする全国的組織。

２代目をもって中間報告とする。初代隊員により、日本の保育を紹介し認めてもらい、モデルクラスをスタートさせた。しかし子供にとっては生活は遊び、生活の中から技術や人間関係を築く力を育てるという基本部分は伝えられきれていない。２代目隊員はリーダーとなってモデルクラスの運営にあたり、３代目隊員はサポーター的立場からカウンターパートの指導、モデルクラスのまとめの役割を担うとの計画がある。教師数：園長、副園長、他28名　生徒数：260名

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	要請内容	中国的保育の特色
菊池　晃子	・子供の気持ちを理解し一人一人に対しての保育目標を持つ （中国の素質教育と同じはず） ・一対一の人間としての信頼関係を築くこと（先生には何でもいえるという関係を築くこと） ・日本の保育は中国の保育より細かく忍耐がいる ・結果が出るのにとても時間がかかる	・語学力；深い考えなどを説明する事が難しい ・トップが２人 ・一クラスの人数が多過ぎ(46人) ・その日暮らし的授業で満足している ・保護者の言いなり ・保護者の意識改革が必要	・自由保育の紹介 ・環境整備 ・教材紹介 ・リズム遊び ・市内幼稚園参観 ・教師向け講習会 ・保護者との連携 ・美術、音楽	・モデルクラス指導 ・日本の幼児教育紹介 ・音楽、ダンス芸術指導 ・手遊び紹介 ・壁面、お誕生表 ・保育環境の整備	・作った物で遊ぶが遊ぶために作らない ・見た目で活動を評価される ・授業の中に遊びを取り入れるのと遊びの中から学ぶ事の解釈の違い ・保護者との連携がほとんどない ・人間関係心育てに余り関心がない ・しつけは厳しい ・安全に対する意識は高くない ・授業が保育で遊びは休憩の感覚
久保　恭子	・保育は一人でするのではなく　保育者同士協力し行うもの ・相手の気持ちを受け入れる心、協力する姿勢が大切 ・園と保護者が子供を中心に対等な関係である ・園全体のどこでどんな遊びが展開しているか広い視野を持つこと ・子供を名前で呼ぶ　・子供の顔を見て話す　・会話から子供の気持ちを把握 ・困ってる人がいたら助けてあげようと思う気持ちを育てる ・子供たち自身から生まれた遊びの楽しさを保育者も共有し心が通じ合う ・多くの試行錯誤から常にどうしたら良いかを考える事が育つ	・中国人教師や保護者にいかに目に見える形で教師や保護者に保育で大切なことを伝えていくか ・クラスをリードしていくプレッシャー ・結果や見た目を重視する中国で目に見えない部分の大切さを伝えていくことは難しい ・今学期保護者から良い評価が得られなければ来学期からクラスがなくなってしまう	・５年間の自由保育の経験を中国のミニ小学校といわれる管理保育とどのように融合できるか ・２月から日本式モデルクラス「桜花班」開設 （同僚3、園児27） ・他に日本式を知る人がいないため保育計画をリードする ・用具の使い方と片づけの指導 ・保育室の環境設定	・日本式モデルクラス （子供の創造性や個性を伸ばす） ・同僚への手法指導 ・遊びの中から学ぶ保育を実践 ・保育内容決定アレンジを任される ・中国否定せず日本の保育方法をより多く紹介 ・レベルが高い分押し付けるような指導方法ではなく、まねしてみよう応用してみようと思ってもらえるような、中国の現状を理解した教師にとって興味深い保育を実践すること。 ・大局的に日本の保育、中国の現状をとらえ、日本の保育を積極的かつ魅惑的に実践アピールできることが望まれる。	＜日本式モデルクラス保育目標＞ ・主体的に行動できる子供 ・他を思いやる子供 ・心身共に健康な子供 ・創造性、想像力のある子供 ・約束を守る子供 ＜日本式モデルクラスクラス目標＞ ・みんながみんなを大事にするクラス ・一人一人が安心して自己を発揮できるクラス ・難しいことにも挑戦していくクラス

7　鎮江市水陸寺巷幼稚園　職員40　園児400　小小班1　小班2　中班3　大班3　1クラス2教師1保育員

のちに「級」から「現代」にランクを上げた（中国の幼稚園には「監査」によるランク付けがあり、3～1級の上が「現代化」という階級になる）。

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	中国的保育の特色	
多田恵	・子供自身の思いを大切にする指導 ・描くことや作ること、身体を動かすことを子供自身が楽しめる指導	・クラスの人数が多い ・子供にわかる語学力 ・園長先生や同僚とのプライベートなつきあいがない ・初代なので理解がゼロからはじめなければならない ・受入希望調査票の相違 ・技術不足に悩んでいる訳ではなく、とりあえず日本人を呼んだという感じ ・CPがいない	・健康づくり ・芸術（美術） ・歌遊び ・集団行動 ・赴任当初は日舞や日本の歌、日本語を要請された ・モデルクラス作り	エピソード ①最後の発表会で日中の闘いで最後に日本が敗れる場面 →ショックで短縮考える ②実験　（4号） ・年長と年少に突然交流命じ交際能力を見る →あまり意味なし ・工作の課程を見て日本と中国の指導の違いを見る ・レポート「お当番の意味」→定着	・教師の社会的地位は高いが給料は安い ・職業意識が違う。子供が好きと言うよりも、生活のためにしごとをしている・どうすれば子供が喜ぶか考えない ・一緒に育つ、子供の気持ちになるということをしない ・先生方が事務職的で教本通り ・国からの要求に応え、子供の要求に応える余裕がない ・予定が立たない。行事も突発的 ・小学校的授業と保育園的生活・子供は叱らないと覚えない ・視覚教育を好む　・過程より結果をすぐに要求する ・子供を叱りながら教えることが多い ・叱るだけでは集中が出来ない子がいるため出来る子と出来ない子の差ができる　・継続力に欠ける ＜同地域の他園を見学した感想より＞ ・子供が見られ慣れている ・絵を感じたまま書くのではなく教師からのインプットにより書いている感じ

8　桂林市七星幼稚園　市内のモデル園

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	要請内容	中国的保育の特色
林陽子	・モンテッソーリを通じて子供の目線、子供の気持ちがわかる保育を心がける ・自分自身が幼稚園の環境の一部となり、良い作用をもたらせるようになりたい。 ・先生達が子供と一緒に楽しみを味わうこと ・自分が子供達を取り巻く環境の一部となり良い作用をもたらしたい	・大きな疑問： 何故中国に幼稚園教諭隊員が必要なのか？ ・決して遅れている訳ではない　国家（社会主義、人口）的に当然 →子供にとって大事な事、教師のあり方を考え直すきっかけになればと考える	・モンテッソーリ教育の普及 ・子供より先ず先に先生達に楽しんでもらいたい（自分も環境の一部だと認識して） ・自分の授業観察後中国先生に真似授業をしてもらう ＊6号報告書モンテッソーリ活動ノート	・モンテッソーリ教育について伝える	・否定できない大きな権限が有ること ・一クラスの人数が多く、保育時間が長い →先生方が疲れている→園児に影響 ・上から下にが多く、自分で決める事が少ない ・仕事に対する自覚不足・言われたこと以外をしようとしない ・教師の余裕のなさが保育にも出る ・上からの圧力が強い

9　湖北省黄岡市代々紅幼稚園・子供の健康、笑顔を一番に考え、創造性・個性を大切にする日本の総合的保育方法から取り入れられる事を模索し教師の質向上希望。

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	要請内容	中国的保育の特色
岸本　桐葉	・日本の教育から出た反省を元に援助方法を考えていくべき ・一方的に教えるのでなく自然に学んでいく授業 ・２号報告書によると、理屈から入らず、見てもらうことに重きを置いている。 ・「教育」としてではなく「交流の一部」として取り入れる。 ・子供が笑って充実した時間を過ごすこと。 ・身体を思い切り動かしたり、自由な創造を表現する事。	・年上の教師から遊んでいるだけだと見られる。 ・既製の折り紙がないので手作り ・日本語を教えて欲しいと要望（交流の一部として取り入れたい） ・先生が公共の物を大切にしない ・中国人教師の授業と自分の授業が融合しない（自分の授業が浮いている）	・地図 ・写真 ・手遊び ・自画像：自由に 中国では上手い人だけ貼る週間だが全員分貼った） ・ゴム遊び ・どんな教具が必要か→室内の遊びを充実させる 今後の活動：担当クラスだけでなく、全体に理論や日本の保育を紹介し、伝えたい→語学の問題もあり、現在構想中	＊全託制度（寄宿児） ・四季、各行事、科目にあわせた保育 ・モデルクラス指導 ・同僚教師への指導 ・公開保育	・年中の子でも泣いてくる子が多い（切り替えは早い） ・クラス全ての子供が教師の指示した事を行うのが当然 （日本では子供の発達時期と教師のねらいがずれた場合は保育者側が対応を変えていく事が重要とされている） ・カセット、オルガンを時々使う ・子供を促す合図としてタンバリンをよく使う ・折り紙など製作的な事はあまりしない （材料が豊富ではない、紙、廃棄物） ・子供主体でなく与えられている教科を覚える、決まった絵を描く、数字や文字を書く ・想像力、個性を重視した授業はあまりない ・戸外での活動や体育的な身体を動かす授業も少ない ・教師の服装や表情（笑顔）への配慮も薄い

毎日保育日記をつけている。子供の気持ちや反応をとても敏感に受け止めて次に生かそうとしている。先生方に押しつけでなく見て感じてもらおうとしている、

１０　鎮江市級機関第二幼稚園・２０００年９月から日本式モデルクラスがスタート・英語教育・知力、潜在能力の探求に積極的な園

＊モデルクラスの継続と交代隊員の派遣を強く希望しているが、中国的なやり方を隊員に押しつけるなど、隊員活動に対する理解が浅いため、隊員の能力を活かしきれていないと考えられるが、最近は理解度・対応に大きな変化がみられ、日本の教育を取り入れレベルアップをはかりたいとの期待も強く、多田隊員のねばり強い交渉もあって協力体制が実を結びつつある。

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	要請内容	中国的保育の特色
多田　恵	＊７　鎮江市水陸寺巷幼稚園　参照			・日本式モデルクラス担当 ・園外に子供のための保育をアピール ・簡単な日本語導入 ・園内外の勉強会	

	目指したもの、理念	問題点	活動力点	要請内容	活動内容
松田　直子	・子供と共に心や身体、自然を使ってたくさん遊ぶ ・遊びの中に子供の素晴らしさをたくさん発見する ・明るく物事に対して責任感があること ・何故、どうしてに対する追究心、研究心、向上心（遊びの中から） ・自分の思いがあることと相手の思いを受け入れられる柔軟性 ・子供一人一人をよく見て遊び援助する ・子供と同じ目の高さで、目を見て会話する ・子供の気持ちを考え、教師自身も感情を言葉や表情で表す	現地語学訓練で幼稚園ですぐ使える内容が無かった ・語学力→言いたいことが言いたいときに伝えられない	・日本式モデルクラスの継続 ・一人一人が主体的に生活できる保育 ・子供が楽しめる活動 ・日本文化交流	・日本式モデルクラス担当 ・園外に子供のための保育をアピール ・簡単な日本語導入 ・園内外の勉強会 ・カウンターパート（2 名）を育てる ・教師の教育観、意識の向上 ・手遊び、歌、踊りの導入 ・生活や躾指導	＜心がけていること＞ ・子供を心と体で思い切り受入、笑顔でいっぱい接し遊ぶ ・子供がのびのび出来る教師環境、子供が楽しい幼稚園、子供が主体的に活動できる幼稚園を願う ＜現状＞ ・中国の国、教育を観察している ・背景もきちんと考えて子供に接していかなければならない ・日本式の子は年長なので今年９月から小学校 →中国の方法を拒否する事は出来ない

重慶市内幼稚園５案件について

１．重慶市北碚区実験幼稚園

① 配属先概要：重慶市の１級幼稚園であり示範幼稚園、16クラス、園児約500名、幼児保育、教育、研究活動を行っている。

② 隊員要請の理由：1、日本の幼児教育の先進的な理念と科学的教育方法を取り入れる。
2、日本人教師の仕事に対する熱心さや労苦を厭わない精神を学ぶ。
3、園の教師との学習交流を促進させる。

③ 活動内容：先進的な教育理念と教育能力を教えてほしい。中国語はある程度熟知しておいてほしい。

④ C/P：胡霞25歳　大卒後6年経験
呉景秀　28歳　大専卒後9年経験

⑤ 資格：幼稚園教諭免許、5年以上の経験

２．YU中区実験幼稚園

① 配属先概要：1 級幼稚園、7 クラス、園児 210 名、幼児教育と教育改革及び研究を行っている。

② 隊員要請の理由：中日両国の教育理念と教育方法の違いを理解し、両国の文化、教育交流を促進させる。

③ 活動内容：中国語の基礎ができてから現場で活動してもらいたい。技術として、コンピューターが扱えること。

④ C/P：左波　27歳　大卒後10年の経験
陳梅　32歳　大専卒後13年の経験

⑤ 資格：幼稚園教諭免許、5年以上の経験

３．沙区実験幼稚園

① 配属先概要：1 級幼稚園であり省市の示範幼稚園でもある。国家幼児英語教育実験基地であり、体育、踊りに特色のある幼稚園である。全15クラス、園児530名。

② 隊員要請の理由：対外交流を盛んにし、日本の先進教育思想と教育概念を取り入れる。日本人教師の先進的な教育方法と経験を取り入れる。

③ 活動内容：園児に対する教育と保育、教師支援として、授業前の準備や知識を教えてもらいたい。技術は、幼児心理学、幼児教育学、衛生学、幼稚園の各科目の教授方法を掌握していること。

④ C/P：周麗　27歳　大専卒後9年の経験

⑤ 資格：幼稚園教諭免許、5年以上の経験、

4．江北区新村幼稚園

① 配属先概要：1級幼稚園であり示範幼稚園、7クラス、園児300名、

② 隊員要請の理由：中日の友好関係を築き、相互交流を行い、幼児教育の方法について研究し、両国間の教育観の理解を促進する。

③ 活動内容：幼児教育と保育を行う。隊員は幼児教育の実践と教育方法を熟知していてほしい、ある程度の中国のレベルが必要。

④ C/P：龍華　29歳　大専卒12年の経験

李楊翁　21歳　大専卒3年の経験

⑤ 資格：幼稚園教諭の免許、5年以上の経験

5．南坪実験幼稚園

① 配属先概要：1級幼稚園、示範幼稚園、開設8年、全10クラス、園児320名

② 隊員要請の理由：海外幼稚園教育の経験、理念の理解と交流

海外との交流

中国語、日本語学習の促進

③ 活動内容：幼児教育と保育を行う。隊員は幼児教育の実践と教育方法を熟知していてほしい、ある程度の中国のレベルが必要。

④ C/P：張格那　21歳　大専卒後2年の経験

鄭愉　23歳　大専卒6年の経験

⑤資格：幼稚園教諭免許、5年以上の経験、

２００２年3月２６日

玄田先生を迎え、中国幼稚園教諭隊員の活動を検討する

《会議内容》

１．隊員活動報告
２．日中幼児教育の相違点
３．隊員活動上の課題
４．今後の展望
５．選考委員玄田先生よりアドバイス

（３時３０分より２０分ほど休憩）

６．各諸外国の幼稚園活動事情
７．その他

《会議の流れ》

１．隊員活動報告
先生方が巡回していない園の状況、活動報告。
（株州、黄岡、鎮江）
巡回指導にあたった園での報告、反省、分かち合い。
（重慶、桂林、太原）

２．日中幼児教育の相違点

＜幼稚園運営形態の相違＞
＊保育時間が朝７時半～夕方６時くらいまでなので食事を３回提供する。
（朝、昼、おやつ）
＊　時間割がある。
＊　教えなければならない教科内容が具体的である。
（数学ならば年中の上学期は７まで…など。教科書を用いているところもある）
＊　教師の仕事と保育員の仕事が分離している。
（食事の時や、お昼寝の時、おもらしなどは保育員の分担比が大きい）
＊　全託児がいる。

（月～金まで幼稚園に宿泊する。ごはん、お風呂なども）

＊　同じクラスでも月齢差が大きい。

（親の希望により発達に合わせてクラスを変更することができる。

３歳児が４歳児クラスにいることもある）

＊　学期ごとに手続きをして名簿登録する園もある。１年間で子どもの出入りが多い。

（１年が区切りになっている園もある）

＜教育目的、内容、環境などの相違＞

＊　服装

＊　生活習慣からでてくる生活様式

（子どもに立って食事をさせることもある、食事中はしゃべらない

子どもが着ている衣服の枚数、排泄の紙の使い方…など）

＊　知識詰め込みがたの中国。

競争（受験など）に勝っていく為の教育というのが優先されている。

＊　先生は「教師」である。（絶対的存在）

＊　見た目重視の教育。

＊　目に見えた成果を求める教育。

＊　１つのクラスが独立して運営される。（情報交換が苦手）

＊　えこひいきがあからさまである。

（「あなたのこと好きではない」と子どもに言ってしまう）

＊　保育員の仕事として爪を切る仕事がある。

＊　子どもがいる教室内で教師たちだけでおかしで食べている。

総括的に…

〔日本〕

子どもの内面に触れ、子ども本来の姿を見つめながらその姿にあった
援助を提供することを心がける。すべての子どもはそれぞれの個性をもち
すべてを認め、受け入れ、理解し「個」の存在を豊かにしていくことを目指す。

〔中国〕

断片的な場面で子どもを判断、評価し１日、１週間、１ヶ月、１年の流れの中で
子どもを捉えていない。教師の要求することを行える集団を形成しようしている気がする。
完璧な子ども像があるのが中国。

<前回２００２年冬の総会でまとめられた意見>

現在中国での活動上一番の障害として考えられる事は、見栄え重視の中国で日本の内面を重視した保育を伝えるのは難しいということです。隊員も然ることながら、日本でのカウンターパート研修をCPも困難を感じているようです。

３．隊員活動上の課題

① 理論と実践が分離しているところ
理論、知識は豊富になってきているが、言葉の真意を履き違えている傾向にある。その為、実際行われる保育が子どもの姿にそったものになっていない。子どもの真の姿を捉えていない。又、捉えていても認められにくいので行おうとしない。
頭で理解していてもどう実践するかわからず悩んでいる中国教師もいる。

② 人的環境について
人的環境の重要性が認識されていない。
それは服装、言動、仕事に対する姿勢など。
足を開いて座る、保育中に教師だけがおやつを食べるなど。

③ 活動形態の違い
時間割がある。
流れを持たせた保育の意義を伝えても伝わりにくい。

④ 勤務形態の違い
２人担任。午前午後交代もあれば日替わりもある。
朝から夕方まで子どもを預かる。
全托あり。
先生達の空き時間がばらばらなので統一して話せる時間がとりにくい。
また、子ども降園後に保育準備ということはない。

⑤ 中国の〔綱要〕と日本式保育、モンテッソーリ教育との兼ね合い。
新しい綱要になり日本の幼稚園教育要領との差があまりなくなってきている。
モンテとの兼ね合い。（窪田）

⑥　中国社会においての幼稚園の役割
早期教育、知育教育としてエリート生産に向けて頑張っている（？）
生きる喜びを感じる保育というより与えられた指示をこなせる教育。

人民が多く,貧富の差が大きい中国において将来競争に勝ち、収入のよい職業につくことは日本人以上に重要視されている。その為、親が子どもの将来のために知識、教育重視の傾向が強くなるのではないか？
現場では理屈で言っていることを目指そうとしているのか？

⑦　子どもを取り巻く環境（一人っ子）
兄弟姉妹がいないから家庭で同年代との社会経験が少ない。
そのため自分達で物事を解決していくのが苦手。
親、祖父母など周りの大人たちの過干渉。
１(子)、２（両親)、４（祖父母）の家族関係。

⑧　幼児に対する外国語教育、知育偏重教育
⑥と重なる部分がある？
教科書を丸暗記させてしまうという
中国の学校の教育形態が幼稚園にも表われている。
（教科書を使い保育をするところもある）

⑨　絵本
いい絵本がない。
絵がけばけばしい。（うるさい感じ、漫画調）
話の最後に必ず教訓的なことを復習させられる。
創造が広がる、巾をもたせた絵ではない。

「絵本」というものに対する先生の考え方が違う。
絵本が「創造力を養う」という意識が低い。
子どもに感想を求めたり、道徳の教科書のように取り扱う。

絵本を読むときの環境配慮などの意識も低い。

⑩　中国人幼稚園教諭の質の高さ、それにともなう技術レベル

☆「中国や中国の子どもの状況を踏まえた上で、これから中国の幼児教育に何が必要なのか、中国の幼児教育がよりよいものになる為に隊員は中国人教師と一緒に何ができるかどのような方向に向かっていくべきか」ということ。

具体的な課題点

＊ 中国の幼児教育の中での問題点の見極め。

＊ 隊員から見た問題点と中国人教師から見た問題点の違い。

＊ 中国の幼稚園教育要領が目指そうとしている保育と実践の差異。

以上の課題点を「中国の子どもの視点」にたって考えてみる必要があると思う。
隊員から見て「良くない」と思うことが、もしかしたら中国の子どもにとっては
必要なこともあるのではないかと思う。
例えば…
個より集団できちんと行動できる事を重視する傾向があるのは、中国の子どもが
みんな一人っ子で自己中心的な面が日本の子よりも強いためそういった教育が
必要なのか？？

4．今後の展望

＊ 要請背景調査を先生に見ていただく

＊ 必殺カードの作成に向けて

＊ 柳州・桂林のグループ活動の報告（窪田）

＊ １１月開催予定の日中の幼児教育についての勉強会に向けての準備。

5．選考委員の玄田先生よりアドバイス

6．各諸外国の幼稚園活動事情

7．その他

2002年3月30日

JICA北京事務所長殿

出張復命書

12年度1次隊　窪田景子
職種：幼稚園教諭

出張期間	平成１４年３月２５日（月）～平成１４年３月２７日（水）（２泊３日）
出張先	北京事務所
旅行行程	柳州→桂林→北京→桂林→柳州
用務	幼稚園教諭巡回指導調査にともなう幼稚園教諭隊員分科会参加の為。北京集合は3月25日（月）でしたが、3月23日（金）桂林視察後の懇談会にも参加しました。
面談者	玄田初栄先生（選考委員）・鈴木日和さん（東京本部職員）
会議概要	桂林にて　22日に二宮伸子隊員の配属先である十五中学主催の食事会に参加したあと、２時間ほど時間をかけて、二宮隊員の活動を視察して玄田先生が感じた隊員による教育効果についてお話しを伺いました。1年半かけてどのような活動をしてきたかということを見るのもこの度の視察の目的の１つでもあって、二宮隊員と生徒との授業でのやりとりを見てとてもよいものを感じたと先生がおっしゃいました。 北京にて　26日の幼稚園教諭分科会では、途中の休憩時間を忘れるほど5時間という時間がいつの間に過ぎてゆきました。これからの中国への幼稚園隊員の派遣形態が技術移転型ではなく交流型（技術レベルは同等とみなしお互いの文化の交流を目的とする）に移行するのではないか、日本式にこだわらず自分がよいと思う保育（誕生日表、クラスだより等）を実践する。よい保育をすることで他の理解を得ることができると先生はおっしゃいました。視察した、重慶、桂林、太原ともによい保育をしていたとおっしゃっていました。よい保育と評価するのと、保育研究としての課題を明確にわけていらっしゃったのがとても印象的でした。 個人の活動への還元　玄田先生の保育観、実践してきた内容はまさに日本の保育だと感じました。しかし任地である柳州の要請内容はモンテッソーリ教育なので、精神面では十分なアドバイスになったけれど、具体的な技術的アドバイスをもらえなかったのが残念でした。 自分の活動状況や問題点を話すという機会はもっと多く経験する必要があると感じました。
備考	＊会議の内容をビデオテープに録画しました。 ＊任地へ帰任の際、空港までの道が渋滞し予定していた飛行機に乗り遅れました。事務所に送付したチケット半券は、コピーして事務所に提出したものとは別のものになっています。キャンセル料が明記された領収書も同封しました。

２００２年３月２８日

国際協力事業団　中国事務所
桜田幸久　　事務所長殿

１２年度３次隊
湖北省　黄岡
岸本桐葉

出張復命書

〔旅行行程〕
２００２年３月２５日（月）～２７日（水）

２５日	集合日　※会議議題の再確認、意見のとりまとめ ※幼稚園巡回時の報告（各隊員より） ※会議レジメの作成
２６日	午前　※レジメの作成　会議資料の準備　ビデオカメラの準備、設置 午後　※玄田先生を迎え会議
２７日	解散日

〔会議内容〕
１．活動報告
２．幼稚園巡回での感想、報告（先生より）
３．共通の問題点、課題の話し合い
４．中国という国を踏まえた上で中国の保育を考える
５．玄田先生よりアプローチの仕方についてアドバイス
６．他国の幼稚園教育事情（ドミニカ、ボリビア）
７．「保育」の原点の見つめなおし

〔会議について〕
今回巡回指導してくださった玄田先生は、協力隊幼稚園教諭選考員ということで初心を思い出す中での再会でした。
先生は様々な資料に目を通してくださっていたので大まかな様子は把握してくださっていました。そして巡回指導の際に現場を体験し、様々な園の様子を把握した上での話し合いとなりました。

実際中国の幼稚園で活動をするようになり「保育」というものを見つめなおす機会の少なくなった中でもう一度保育の基本的なことを振り返ることができました。
それは環境作りであったり、保育の導入部分であったり、先生や保護者への働きかけであったりと様々な面で「視点を変えていけるのではないか？」という発想の転換のよい機会となりました。
隊員同士ではお互い直面している問題が似ていることで、気持ちを理解しすぎてしまう分見えてこない視点でのアドバイスがいただけたと思います。

赴任１年になろうとしますが、今までは相手国の文化を理解した上で自分の学んできた保育を合わせていく進め方をしてきました。そして関係が築かれた上で伝えたいことを伝えていく時期がきたと感じていました。しかし、自分一人で考えているだけでは出てこないものや、意見を交換することによりよりよい方法を考え実践していく意欲をいただきました。

理想論ではなく
「そこにいる子どもの幸せ、笑顔、生きる力をやしなうのために」
ということが保育につながることをもう一度心にとめて活動にあたりたいと思います。

又、幼稚園教諭の派遣の比較的多い中国の幼児教育の現場を選考委員の先生に体験していただいたことにより今後隊員を選考していく際に参考にしていただけることと思います。そして報告書では見えない部分を感じていただけたのではないでしょうか。

〔出張を終えて〕

幼稚園教諭グループ活動は、中国という国土の広さより普段集まることのできず共通の問題はありながらも具体的に解決策を話し合うことは難しい状況におかれています。そんな中、今回の巡回指導という具体的な活動を通して目的を絞って話し合いができたことは個人の活動につながるグループ活動だと感じました。

幼稚園教諭の活動の場合、同じ日本人といっても「保育感」は様々なので大きな目標は同じでもグループとして共同で活動していくのは難しいと話し合ってきました。しかし今回の活動は「個人の活動につながるためのグループ活動」を発展させる目安となった出張でした。今後、この糧をいかしてできることから積み重ねていきたいと思います。

平成１４年３月２８日

国際協力事業団　中国事務所長
櫻田　幸久　殿

青年海外協力隊
１２年３次隊　幼稚園教諭
松井　里栄子

出張復命書

1）行程

平成１４年３月 25 日	午前	重慶～北京　移動日
	午後	分科会準備　資料整理
26 日	午前	分科会準備　資料整理
	午後	幼稚園教諭隊員分科会
27 日	午前	資料整理
	午後	北京～重慶　移動日

2）幼稚園教諭隊員　分科会　会議概要

＜参加者＞　玄田初榮　技術選考委員
鈴木日和職員（JOCA）
家田　豊　調整員
12 年 1 次隊　窪田景子隊員　12 年 3 次隊　岸本桐葉隊員　松井里栄子
13 年 1 次隊　杉田朋子隊員　久保恭子隊員　松田直子隊員

＜内容＞

① 各隊員の現状報告
② 活動上の問題点、今後の課題
- CP との関係
- 日本式保育とは何か？
- 「授業」と好きな遊びの時間に対する意識の違い
（一日の生活すべてが保育であるということ）
- 家庭との連携の重要性を伝えていく

③ 玄田先生からのアドバイス、助言

- 教育とは人を変えることである。
- 訴える力、説得力のある、良い保育をしていくことが大切である。
- 自分のやりたい保育のイメージを描き、設計してみる。
- 気になっていても様々な理由からできないことや、変えられないこともある。できることからやってみる。
- 一人一人を大切にする保育（多様なものを尊重する）。発達に見合った保育をすることが大切である。

3）分科会を終えての感想

この前半の一年を振り返ってみると、「日本の保育」とは？今ひとつ確信が持てないまま、何をどこからどうやって伝えていけばいいのかわからず焦った時期もあり、カウンターパートたちから要求されることと、私がイメージする保育との違いや、ギャップにも戸惑うこともしばしばでした。また、国や文化習慣、社会的背景等、子どもたちや大人たちを取り巻く環境の様々違いにも驚かされることばかりで、いったい何が正しいのか見失いそうになった時期もありました。でも一年経った今、確信を持っていえることがあります。それは「このようないろいろな違いの中で『良い保育』をすることが子どもたちの、私たちの幸せにつながる」ということです。今回の分科会でそのことを更に強く感じました。後一年で、このことがどれだけ中国の教師や保育員の人々に伝わるのかはわかりませんが、少しでも多くの人々と共に模索しながらよりよい保育を目指したいと思います。

今回、このような良い機会に恵まれたことで自分自身の活動を見直し、今後の見通しを立てることができました。玄田先生からの助言の中にもあったように、「自分のイメージした保育を実践し、それを通して日本の幼児教育を理解してもらう」ということを意識して、今後も取り組んでいこうと思います。

「幼稚園教諭巡回指導調査にともなう出張復命書」

2002年3月28日

13年度1次隊　杉田朋子

目的：幼稚園教諭巡回指導調査にともなう幼稚園教諭隊員分科会への参加

出張期間：2002年3月26日～27日（1泊2日）

出張先：北京事務所

会議参加者：玄田初榮先生、協力隊事務局　鈴木日和さん、家田豊調整員

幼稚園教諭隊員6名

会議概容：

それぞれの幼稚園教諭隊員の現状報告及びこれまでの経過を報告。巡回指導があった隊員からは当日の活動内容の報告も重ねて行った。それぞれが今の現状のなかで、模索しながら活動している様子を聞き、中国における幼児教育の問題点、隊員が活動するうえでの問題点を出しあった。

玄田先生からのコメントは協力隊活動期間だけでなく、今後も保育者としているかぎりは胸に刻んでおこうと思う。特に「教育とは人を変えることである」「こころで伝えれば、こころは変わる」この二つが心に残っている。そして今回の会議では保育の原点を改めて教えていただいたと思う。日本とう国しか知らず、結構あると思っていた自分のなかにある「しなやかさ」が思っていたよりなくて、そのくせ中国の波に流されそうになる自分を玄田先生の言葉で励ましていきたい。玄田先生は「変えられないものも、変えられるものもある」と話された。これからも、子どもを大切にした保育をするために、どこを変えることができるのか模索していきたい。そして協力隊活動だけでなく、自分自身の中でも変えられるものがないか模索していきたい。

今後の活動においての先生のアドバス・・・保育をする上での事前の打ち合わせの必要性。時間によって変わっていく全体の様子の把握。特には子どもを困難な状態に置くのも子どもの人間関係には必要であり、そのかかわりを中国人教師に知らせ子どもの可愛さを伝えていく。小学校の2年間より幼稚園の2年間はよくも悪くも変えられる、子どもには「しなやかさ」がある。子どもで勝負をすること、いい学級になっていけば注目されるはずである。理屈よりからだで表現していくことが一番説得力がある。実践をもとに研究をしていく。共感から共有へと発展していけるように。実践のなかで子どもの個性がみえてくる。好きな遊びではなく「自分で見つけた遊び」を。自分でイメージを持ち、保育をしていく。なるべく自由な環境を与えることで自分の思いを出すことができ、自分で選ぶことができる、これが主体性へとつながっていくのである。そして以上これらが「訴える力」となり、保育の理解へとなっていく。

出張復命書

１３－１　幼稚園教諭　久保　恭子

＜旅行行程＞

３月２５日　北京上京

２６日　午前：会議準備、資料作成

午後：幼教会議「玄田先生を迎え、中国幼稚園教諭隊員の活動を検討する」

２７日　解散

＜面談者＞　玄田初榮先生（幼稚園教諭隊員選考委員）

＜会議概要＞

１．隊員活動報告

隊員自己紹介、先生が巡回していない園の状況、活動報告

２．日中幼児教育の相違点

３．隊員活動上の課題

４．今後の展望

５．選考委員玄田先生よりアドバイス

６．各諸外国の幼稚園活動事情

７．その他

＜幼教分科会を通して＞

今回、玄田先生を迎えての幼教分科会は、１時３０分から６時まで話を途中で区切るのがもったいないほど有意義なものとなりました。私は、この半年で中国の保育に慣れてしまった事から、赴任当初に感じていた違和感が薄れてしまい、日本式モデルクラスとして中国の先生方や保護者に一番何を伝えていくべきか、という事がわからなくなっていました。又、日本で保育をしていた時に大事にしてきた事が果たして本当に中国の子どもにとって必要なのか、中国の子どもに合うのかどうか、という事に自信が持てず悩んでいました。しかし、玄田先生から「理屈で伝えるのではなく、実践で伝えていくべき。良い保育をして子どもが変われば、周囲はなぜそのように変化したのかに必ず注目する。」というお話を聞き、自分が理論ばかりを伝えようとしていた事に気付かされました。そして協力隊活動として、理論よりも実践で勝負していく事が一番効果があるという事、自分が感じた違和感について中国人教師とよく話し合い、実態に合った方向からどうしたらいいか保育方法を一緒に考えていく事が大事だという事がよくわかりました。日本式モデルクラスが始まったばかりでクラスとしてまだ落ち着かない状況にあり、又今後の方向性が見えにくくなっていた私にとって、今回の分科会は気持ちを切り替えて活動に望む為の大きなきっかけになったと感じています。中国幼教隊員の気持ちを受けとめ、温かく励まして下さった玄田先生、本当にありがとうございました。

復　命　書

１３－１　　鎮江市　　松田直子

２００２年、3月20日～3月27日までの8日間、日本より青年海外協力隊幼稚園教諭選考委員であられる玄田初恵先生と、中国協力隊OBであられる鈴木日和さんをお迎えして、技術顧問による幼稚園教諭隊員視察指導が行われました。

前半は隊員の任地現場活動視察という日程で、桂林・重慶・太原の3隊員の活動状況を視察していただき、後半2日間は活動視察を踏まえ、北京事務所にて技術顧問と幼稚園教諭隊員全員による分科会を行いました。
今回、分科会を行うにあたり、幼稚園教諭隊員では、2002年冬の総会時の分科会、また、分科会以外ではインターネット上のMLにて，お互い現在の活動状況、中国の保育の現状・実態や疑問に思っている事、また、活動していく上での問題点などを情報・意見交換をし、玄田先生をお迎えしての分科会がより充実した時間となるように日ごろから話し合いを進めてきました。

3月25日に行われた分科会では、先生方の隊員活動視察、また、上述方法で隊員によりまとめられた中国の現状、中国隊員の現状を踏まえ、先生から多くのアドバイスをお聞きする事ができました。

【分科会を終えて】

日本では、常に“個”と”集団”ということを頭に置き保育してきた私です。”個”が成長しなければ”集団”だって成長しない。”個”が成長してできていく”集団”が成長していけば更に”個”も成長していく。これら二つはいつも絡みあっていると思っています。そんな“個”が成長していくためには私達幼稚園教諭は何をすればいいのか。ここから、日本の幼稚園教育はスタートしていくような気がします。もちろんその”個”の成長とは目に見える成長ばかりではありません。しかし、中国にはそれが欠けている。“個”ではなく“集団”がまとまるために、“知能”が向上する為に、教師は“援助”ではなく“指導”をしていきます。しかし、果たしてこれがたとえ中国であっても良いことなのか。
今回の先生がお話の中で「子供はお餅のようである。簡単に形を変えられるし、泥の手でこねたら黒くもなるお餅のようだと私は思っている」とおっしゃっていました。“目の前の与えられた子供達の幸せの為に私達は何をしなければいけないのか”を考えて活動にあたる事」、その言葉にハッとさせられました。”幸せ“・・・・簡単な様でいて重い言葉です。当然私達幼稚園教諭はみな子供の幸せを願って保育にあたります。ですから保育、活動、また一人一人に対していつもねらいを持ち、目の前の子供の現状を大切にし、子供を見守ったり援助したりしていきます。しかし”子供の幸せのため“という言葉を今の協力隊員として活

動中の私にもう一度問いかけ直してみたとき、果たして私はそれが優先していただろうか。

「これが中国なのだから・・・」と一種の諦めを感じてはいなかっただろうか。しかし、今回の分科会で、子供の幸せを考えたら前述したように「たとえ中国であっても良いことなのか？」という疑問を更に持ち続けていかなければいけない、この基本姿勢を学ばされたような気がしています。そしてそう疑問に思う事で立ち止まるのではなく、活動の展開方法を考えて実行していかなければ、本当に“子供の幸せを考えているとはいえないな”と自己反省をしました。私が活動をしてきた７ヶ月で、私は色々な中国の保育を見、両国の保育のよさを、また悪い面をも見ることができました。しかしそれは“両国”ではあるけれど、私は本当に子供の気持ちに沿った、そして内面の子供の幸せを考えた保育をしているのは“日本の保育”だという自信を得る事もできています。しかし、その自信を私は今まで中国で形として実行に移せなかった。が、今回の分科会で、だからこそ私達日本の幼稚園教諭が派遣されたんだ、もっともっと自信を持って保育にあたっていいんだ。そして、自分の保育を見せていっていいんだ、そう前向きに考えられるようになりました。それが子供の幸せにつながる事を信じて。

しかし、そうはいっても背景には私達の知らない中国という社会がある。もちろん言葉の問題もある。だからこそ疑問に思った事はCPに聞いて、言葉で伝えきれない事は行動として実行していく。ここでも先生の言われた「イメージを描きできる事から実現させていく」ことが関係してきているように思いました。

今回の分科会では

「“子供の幸せの為に”・・・を考えて立ち止まらないこと。
幸せのために必要だと思った事は実行していく事」

という忘れかけていた基本的なキーワードを再確認することができ、とても有意義な時間となりました。この中に活動の全てが含まれているような気がしています。

私は現職参加なのですが常日頃から日本へ帰ってもう一度保育をするのがとても楽しみです。

それは、中国で再確認できた日本の保育のよさ、日本の保育への自信・そして、日本の保育に欠けているなと思った事を知ることができた・また、色々な協力隊員にあえてみんなから学ばされたり、自分の保育に足りなかった事を気付かせてもらえ、そんなところから、更に奥の深い“保育”というものを肌で感じる事ができ保育の楽しさを感じています。今、中国では自身の言葉の問題や、やはり中国という現状の中で実現できない事はありますが、日本ならそれら学んだ事を思いっきり生かす事ができる。
その上、今回、技術顧問訪中・分科会と、このような機会を与えていただき、更に保育の奥の深さを、面白さを感じる事ができました。

先生がおっしゃっていた“自分のための活動”という言葉は、本当にその通りです。

異国で保育する事はたやすい事ではない。でも、たくさん躓いて悩んで、それでも、決してそれが無駄な事、自分を苦しめているとは思わず、逆にそれを自分のためにしていこう、していくんだ、という気持ちを持ち続けて、活動にあたっていきたいと思っています。幼稚園教諭時代でこんなに実りのある2年間はないかもしれないくらい、色々考えさせられ学ばされている日々です。

今回、このような機会を与えてくださり、中国協力隊員のためにお忙しい中色々準備して訪中してくださった、玄田先生、鈴木日和さんに、また、それに伴い、動いてくださった、日本・中国を含めた事務所の方々には本当にとても感謝をしています。
今回、このような機会から、私達は色々な方々に支えられて活動できている事を改めて実感する事ができました。多くの方々に支えられている事を忘れず、残りの期間を活動に当てていきたいです。技術顧問訪任国は、そうどの国の隊員にも与えられている機会ではない。それなのに、そのような機会に恵まれた事に感謝をし、今後の活動の展開につなげていきたいです。

そして、実際の分科会以外にも、先生、日和さんの温かさに触れ、「もし私が逆の立場だった時、こんなに暖かい心遣いができただろうか・・・。」と本当に自分の未熟さから、“人間”としての大切さも学ばされました。保育は“技術”だけでなく、人間性も現われてきます。お二人の優しさに触れ、そんな自分を問い直せた事を本当に嬉しく思います。

最後になりましたが、こんなに充実した機会を与え　ていただいた事に本当に感謝いたします。ありがとうございました。

JICA

LIB